

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

4

2001. 3

大阪府教育委員会

大阪府文化財調査事務所年報 4 正誤表

ページ	行	誤	正
例言	18	般括主査	總括主査
目次	32	聖神社古墳群按地	聖神社古墳群陽按地
目次	36	讀良郡条理遺跡	讀良郡条里遺跡
挿図目 次・表目 次	第9図	石組炉	石組炉跡
挿図目 次・表目 次	第50図	同古墳天井石盛土状況	同古墳天井石検出状況
挿図目 次・表目 次	第61図	調査区位置図	調査地区位置図
4 99010		農村総合整備事業歌垣第2地区	農業基盤整備事業「歌垣第2地区」
4 99026		大田遺跡	太田遺跡
4 99026		八尾市大田	八尾市太田
5 99039		平石古墳群	平石・加納古墳群
5 99039		中山間地域総合整備事業(平石地区)	中山間地域総合整備事業「南河内こぜ地区」
5 99065		福宜田佳男	福宜田佳男・辻本武
5 99070		東部流域下水道なわて水環境センター建設	寝屋川流域下水道なわて水環境センター建設
6 第2図		讀良郡条理遺跡	讀良郡条里遺跡
6 第2図		はざみ遺跡	栄町遺跡
6 第2図		応神陵古墳外堤	菅田御廟山古墳外堤
8 本文右12行目		先尖器	尖頭器
9 1行目		こじまきた	こじまきたいそ
9 本文左28行目		2トレンチかでは	2トレンチでは
12 1行目		応神陵古墳外堤	菅田御廟山古墳外堤
12 本文左1から2行目		応神陵古墳外縁外堤	応神天皇陵古墳外縁
12 本文左16行目		応神陵古墳外堤	菅田御廟山古墳外堤
21 1行目		ののがみにし	ののえにし
28 1行目		きんのほんまち	きんやほんまち
35 第61図		調査地区航空写真	調査区航空写真
38 4行目		中井貞夫・辻本武	福宜田佳男・中井貞夫・辻本武
41 3行目		大阪府寝屋川流域下水道なわて水環境センター建設	寝屋川流域下水道なわて水環境センター建設
47		大西貴子	井西貴子

はしがき

昨年11月、考古学の世界を揺るがすショッキングな事件が起こってしまった。「旧石器の捏造事件」である。マスコミによって連日大きく報道され続けた。

今もなぜ、こんな事件が起こったのか全てを理解できかねている。

しかし、私たちの仕事には全く無関係でない。事件報道後、私たちの仕事も少なからず「疑いの目」を向けられていることに間違いはなく、世間からの冷たい視線を感じてきた。

遺跡の発掘調査は、調査担当者の豊富な経験、技術と知識に支えられ、かつ慎重でなければならない。決して「God Hand」ではない。一度失った信用をいかに回復すべきか、今後の我々の大きな課題の一つとなった。

さて平成11年度に本府が実施した埋蔵文化財調査の総面積は、約46,000m²にのぼる。発掘調査、試掘調査、確認調査、立会すべて合わせて72件である。近年、大阪府は未曾有の財政危機を迎える事業数、規模等も大幅に縮減されているものの、埋蔵文化財調査については大幅な落ち込みは認められず、整理、保存、管理におわれる日々が続いている。蓄積したデータを資料化し、公開し、研究活用することこそ、今私たちに与えられた第一の責務であると考える。

今後とも文化財保護行政に対しまして皆様方のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成13年3月30日

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 小林 栄

例　　言

1. 本書は大阪府教育委員会文化財調査事務所年報の第4冊である。
2. 本書の内容は、大阪府教育委員会調査事務所で実施した平成11年度発掘調査及び資料貸出等に関するものである。
3. 本書の第2・3表には平成11年度に大阪府教育委員会が実施した埋蔵文化財調査のすべてを掲載している。
なお、同表中の実施面積の単位は「m²」である。
4. 主要な調査については、概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号はそれぞれ以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は、第2・3表の調査番号と一致する。

遺跡名（平成11年度調査番号）

- (1) 所在地
- (2) 調査面積
- (3) 現地調査実施時期
- (4) 調査の原因となった事業
- (5) 概要報告執筆者

5. 概要報告の執筆者は調査担当者がこれにあたり、「平成11年度における埋蔵文化財調査の概況」は、調査第2グループ統括主査広瀬雅信が執筆した。
それ以外の執筆は、文化財調査事務所職員が分担して行った。
各文責はそれぞれの文頭に記した。
6. 卷末の貸出・掲載許可・閲覧等にかかる資料の一覧表は、調査管理グループで作成した。
7. 本書の編集は調査管理グループが担当した。

目 次

はしがき	
例言	
目次	
平成11年度における埋蔵文化財調査の概況	1
 発掘調査概要報告	
招提中町遺跡（99001）	7
西大井遺跡（99003）	8
小島北磯遺跡（99004）	9
田井中遺跡（99005）	10
總持寺遺跡（99007）	11
応神陵古墳外堤（99008）	12
坪ノ内・戸石遺跡（99010）	13
麻生中下代遺跡（99013）	14
岡遺跡（99014）	15
吉井遺跡（99015）	16
陶器南遺跡（99016）	18
栄町遺跡（99017）	19
田能地区遺跡群の調査（99019, 99042, 99043, 99050）	20
野々上西遺跡（99021）	21
秦廃寺（99023）	22
桐山遺跡（99024）	23
摩湯地区・馬場地区の調査（99032, 99033）	24
男里遺跡（99034）	25
高向遺跡（99035）	26
池上曾根遺跡（99036）	27
禁野本町遺跡（99037）	28
平石・加納古墳群（99039）	29
倉垣遺跡（99041）	30
中神田遺跡（99045）	31
寛弘寺1号墳（99049）	32
聖神社古墳隣接地（99052）	33
丸笠山古墳隣接地（99053）	34
金岡西遺跡発掘調査（99060）	35
野々上遺跡（野中寺跡）（99061）	36
木の本遺跡（99063, 00001）	37
幕坂古墳（99065）	38
讃良郡条理遺跡（99070）	41
 府立能勢高等学校所蔵遺物	42
 資料の貸出・掲載・閲覧	44
 平成12年度 大阪府教育委員会文化財調査事務所組織図	47

挿図目次・表目次

第1図	事業別・地域別調査面積	1	第41図	馬場地区周辺地形図	24
第2図	発掘調査概要報告掲載 遺跡位置図	6	第42図	貝塚市馬場地内 N.O.4トレンチ北壁	24
第3図	弥生時代中期の方形周溝墓	7	第43図	調査区位置図	25
第4図	弥生時代ピット群	7	第44図	調査区遺構平面図	25
第5図	調査区位置図	8	第45図	北堤杭列検出状況	26
第6図	ブロック分布図	8	第46図	発見された周溝群	27
第7図	出土旧石器	8	第47図	調査区位置図	28
第8図	小島北礎遺跡近景	9	第48図	位置図	29
第9図	石組炉	9	第49図	シヨツカ古墳周辺 試掘坑位置図	29
第10図	調査地および遺跡位置図	9	第50図	同古墳天井石盛土状況	29
第11図	調査区位置図	10	第51図	調査区位置図	30
第12図	3号木棺墓	10	第52図	M区全景	30
第13図	K地区円形周溝墓	11	第53図	奈良時代木器出土状況	30
第14図	H地区平面図	11	第54図	調査区位置図	31
第15図	調査区位置図	12	第55図	遺物出土状況	31
第16図	外堤断面	12	第56図	墳丘全景	32
第17図	外堤断面図	12	第57図	主体部棺内完掘状況	32
第18図	周辺の遺跡	13	第58図	試掘区周辺位置図	33
第19図	坪ノ内遺跡C区南半部全景	13	第59図	試掘区周辺位置図	34
第20図	戸石遺跡全景	13	第60図	調査位置図	35
第21図	竪穴住居、縄柱建物	14	第61図	調査区航空写真	35
第22図	交番建設に伴う調査区全景	15	第62図	調査位置図	36
第23図	調査区位置図	17	第63図	遺構平面図	37
第24図	吉井木簡写真	17	第64図	戸戸231遺物出土状況	37
第25図	吉井木簡実測図	17	第65図	豊能都美化センターと幕坂古墳	38
第26図	調査地点	18	第66図	幕坂古墳位置図	39
第27図	第1調査区	18	第67図	幕坂古墳全体図	40
第28図	調査区位置図	19	第68図	幕坂古墳石室図と断面図	41
第29図	トレンチ位置図	19	第69図	調査着手前	40
第30図	出土遺物	19	第70図	古墳全景	40
第31図	遺構面全景	19	第71図	玄室部	40
第32図	神宮寺西遺跡建物	20	第72図	万全の装備で発掘作業	40
第33図	調査地位置図	20	第73図	古墳石室全景垂直写真	40
第34図	位置図	21	第74図	羨道部	40
第35図	出土遺物	21	第75図	玄室部	40
第36図	位置図	22	第76図	調査終了後の植生シート養生	40
第37図	出土遺物	23	第77図	古墳時代遺構面	41
第38図	位置図	23	第78図	出土土師器・須恵器	42
第39図	摩湯地区周辺地形図	24	第79図	有孔円盤・紡錘車	43
第40図	岸和田市摩湯地内 N.O.6トレンチ北壁	24	第80図	府立能勢高校所蔵遺物実測図	44

第1表	平成11年度本発掘調査件数・調査面積	2
第2表	平成11年度調査個所一覧（1）	4
第3表	平成11年度調査個所一覧（2）	5

平成11年度における埋蔵文化財調査の概況

廣瀬雅信

1. 調査件数・面積と各種土木工事等の動向

平成11年度に実施した埋蔵文化財調査は、発掘・試掘・確認・立会あわせて72件、約46,000m²にのぼるが、昨年度に比べ件数は14件、調査面積は20%減少した。平成8年度以降増加傾向であった事業量が件数、面積とも大幅に減少したことが目に付く。調査の原因は大半が大阪府の公共工事で、過去のデータでも地域別、原因別の事業量は大きく変動しているが、大規模事業の動向や、本課と(財)大阪府文化財調査研究センターとの業務分担等も変動の要素となるため、大阪府の公共工事の動向を直接反映しているとも言い難い。

原因別に見た事業の動向

原因別に見ると、事業量の全体的な減少にもかかわらず、住宅関係の事業量はほぼ横ばいである。

府営住宅に関する調査面積は23,590m²で全面積の54%弱を占める。昭和30年代に建設された木造住宅の建て替えはほぼ完了に向かっているが、引き続き簡易耐火住宅等の建て替えも計画されてお

り、当分中・高層化に伴う調査が続きそうな情勢である。

農林関係の調査面積は、昨年度に比して45%減少した。大規模なほ場整備事業は終息しつつあり、ため池改修など小規模なもののが多かったことによる。ただし、今後の中小規模のほ場整備事業の推移によっては事業量が増加に転じる可能性はある。

道路関係の調査面積はほぼ半減した。新設道路の調査が一段落し、歩道設置などに伴う小規模な調査が増えたことによるが、今後もこういった傾向が続くと予測される。

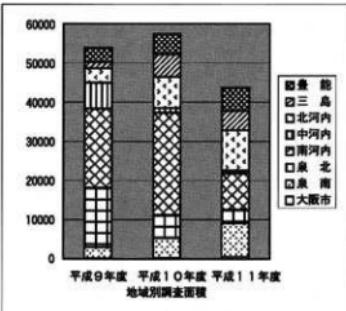
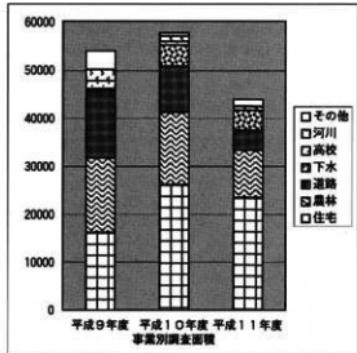
下水道事業に伴う調査はほぼ横ばいである。大井処理場建設に伴う西大井遺跡の調査は今後も継続するため、事業量の大きな変動はないものと見込まれる。

府立高校は確認調査1件にとどまった。今後もエレベーター設置等のバリアフリー対策等小規模な事業が増加すると考えられるが、大規模改修の動向によっては事業量の大幅な増加もありうる。

河川改修に伴うものは6件1,125m²であった。

	平成9年度		平成10年度		平成11年度	
	調査面積 (m ²)	比率	調査面積 (m ²)	比率	調査面積 (m ²)	比率
住 宅	16,304.0	30.1%	28,271.0	45.5%	23,590.0	53.0%
農 林	15,482.0	29.4%	15,026.0	26.0%	9,832.0	22.0%
道 路	14,074.0	26.0%	9,590.4	16.0%	4,150.0	9.4%
下 水	294.0	0.6%	4,385.8	7.5%	4,149.0	9.4%
高 校	1,880.0	3.1%	750.0	1.3%	841.0	1.9%
河 川	2,351.0	4.3%	1,125.0	1.9%	841.0	1.9%
其 の 他	3,946.0	7.2%	955.0	1.7%	1,498.0	3.3%
合 计	54,131.0		57,783.3		44,035.0	

	平成9年度		平成10年度		平成11年度	
	調査面積 (m ²)	比率	調査面積 (m ²)	比率	調査面積 (m ²)	比率
住 宅	3,847.0	8.7%	5,248.0	9.1%	6,026	13.7%
三 島	1,522.0	2.1%	5,778.0	10.0%	4,893	11.1%
北 河 内	3,738.0	6.9%	7,948.0	13.8%	10,296	23.6%
南 河 内	6,078.0	12.0%	1,204.8	2.1%	866	1.9%
泉 北	20,144.0	37.2%	26,177.8	46.3%	9,324	21.2%
泉 南	15,359.0	28.4%	5,922.5	10.2%	3,531	8.0%
大 郡 市	2,901.0	5.4%	5,206.1	9.0%	6,638	19.6%
合 计	54,131.0		57,783.3		44,035.0	



第1図 事業別・地域別調査面積

長年にわたり実施してきた大水川改修工事に伴う調査が今年度で終了した。

その他各種事業に伴う調査は8件あった。特殊な例としては、マスコミにも大きく取り上げられた能勢町内のごみ焼却施設によるダイオキシン汚染土壌処理に伴う幕坂古墳の調査が挙げられる。

地域別に見た事業の動向

地域別にみると、平成10年度は南河内が突出していたが、平成11年度は総面積に対して北河内が23.6%、南河内が21.2%、泉州が19.6%とほぼ拮抗している。他は8~13%前後であるが、中河内と大阪市域は相変わらず1%台にとどまった。

その他

今後事業を左右する要素として留意する必要があると考えられるのは、平成12年3月24日付で定めた「大阪府における開発工事等に伴う埋蔵文化財の取扱い基準」であろう。同基準には、近世・近代の遺跡の取扱いや、3m以上の盛土をする際の遺跡の取扱いなど、調査の要不の判断、事業量の増減に大きく影響するいくつかの項目があり、統一的な対応、適用が求められることとなろう。

また、近年の傾向として、調査着手が年度後半にずれ込むことが多くなってきている。10年度は年度前半にはば半数の事業に着手したが、11年度は年度前半に着手できたものは72件中わずか24件にとどまる。農林関係事業など秋の収穫後でないと着手できない調査も多いためであるが、このことは調査と遺物整理の計画的実施に及ぼす影響が大きいといえる。今後調整を要することであろう。

2. 各地域の主要な調査

豊能地区

能勢町ではほ場整備に伴い4年にわたって実施してきた倉垣遺跡の調査が終了した。これまでの調査面積は延べ10,000m²に及び、弥生時代前期から中期、古墳から飛鳥時代、平安時代等多彩な集落の姿が明らかになった。

能勢町では他に幕坂古墳の測量調査を実施した。これは、ダイオキシンに汚染された表土を除去した後植生シートで覆うため、現況の記録を行ったものである。古墳は幕坂古墳群中唯一遺存しているもので、横穴式石室を確認した。

三島地区

茨木市船持寺遺跡では弥生時代末の円形周溝墓、土器棺、古墳、奈良~中世の多数の建物などを検出した。このうち小児用と考えられる土器棺から出土したガラス製の管玉は近畿の弥生遺跡では類例の少ない副葬品として注目される。

高槻市田能地区では中世の屋敷跡等を調査した。

北河内地区

枚方市招提中町遺跡では昨年度に引き続き弥生時代中期の竪穴住居や方形周溝墓群、古墳時代前期の竪穴住居群、飛鳥時代の竪穴住居、平安時代の掘立柱建物等を検出した。今後、成果をとりまとめて報告することが課題である。

四條畷市鐵良郡条里遺跡で実施した確認調査では、鎌倉時代以降の条里遺構の下層で古墳時代の集落跡を確認した。次年度も本発掘調査に向けた確認調査を継続する予定である。

	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉州	北	泉	南	大阪市	合計
道路	件数	1				1	2	1			5
	面積(m ²)	224				70	1,891	20			2,205
学校	件数										
	面積(m ²)										
公園整備	件数	2	2			2	1	1			8
	面積(m ²)	4,594	948			528	1,400	100			7,568
住宅	件数		1	1		1		2			5
	面積(m ²)	3,710	9,380			3,756		5,438			22,284
河川	件数				3						3
	面積(m ²)				589						589
下水	件数					1					1
	面積(m ²)					3,787					3,787
その他	件数	1				1					2
	面積(m ²)	1,200				122					1,322
合計	件数	4	3	1	3	6	3	4			24
	面積(m ²)	6,018	4,658	9,380	589	8,261	3,291	5,558			37,755

第1表 平成11年度本発掘調査件数・調査面積

中河内地区

八尾市田井中遺跡は、弥生時代前期古段階に成立した中河内地域では最古に属する拠点集落で、環濠集落の姿が明らかになりつつある。平成2年度以降の調査で弥生時代中期の大溝に沿って木棺墓群を検出した。木棺の構築法がよく分かるものであるとともに、この時期の墓域についても一定の手がかりを得ることができた。

八尾市木の本遺跡では古墳時代前期・中期の集落の一部を検出した。井戸や土坑から古式土器類、韓式系土器、初期須恵器、製塙土器などの良好な資料が多量に出土した。

南河内地区

藤井寺市西大井遺跡では最終面で旧石器時代のブロックを確認した。出土した旧石器は654点にはる。また、前年度と同様、谷の斜面で縄文時代後期と弥生時代終末の墓域を検出した。

河南町寛弘寺古墳群で1号墳の調査を行った。墳形は20×21mの方形で、被覆粘土を有する削竹形木棺が納められた北頭位の主体部を検出した。木棺はすでに痕跡化していたが、棺内外から鉄劍、鉄鎌等の武器や鉄斧、ヤリガンナ、鋤先等の農工具など副葬品が出土した。出土した埴輪などから5世紀前半に位置づけられる、寛弘寺古墳群の中でも古い古墳である。

同じく、河南町の平石・加納古墳群で農林関係事業に先立つ試掘・確認調査を実施した。同地区は從来から「アカハゲ古墳」、「ツカマリ古墳」、「加納1・2号墳」等の終末期古墳が集中することで知られていたが、今回の調査で新たに古墳を1基発見した。見事な版築による墳丘盛土と石室の天井石を確認したが、盜掘孔から榛原石と考えられる板石が出土したことから、アカハゲ古墳等と同様の終末期古墳と推定される。この古墳は小字名からシヨツカ古墳と命名された。

東北地区

堺市陶器南遺跡では陶荒田神社の東北方一帯に広がる平安～中世居館の一部を調査した。検出した遺構は掘立柱建物、大溝等である。

和泉市池上曾根遺跡では環濠集落の東北縁辺部を調査した。平成8・9年度に実施した調査で明らかになった弥生時代中期の墓域について新たな資料を加えることができた。

堺市金岡西遺跡では櫛を伴う奈良時代の掘立柱建物群が検出された。

泉州地区

岸和田市吉井遺跡では弥生時代後期から鎌倉時代の遺構面を確認した。幅15m以上の奈良時代の大溝が検出され、覆土から「大平寶字」紀年銘の文書木簡が出土した。「律」に関する内容と考えられるもので、遺跡の性格を考察するうえで重要ななものである。

貝塚市麻生中下代遺跡では秦廃寺に隣接している。今回は奈良～平安時代の掘立柱建物群、7世紀ごろの竪穴住居、弥生時代中期の竪穴住居等が検出された。弥生時代の住居跡の調査事例は貝塚市城ではきわめてまれである。

岬町小島北磯遺跡は試掘調査で新たに発見した遺跡で、弥生時代から平安時代の土器片とともに石組みの製塙炉が検出された。

大阪市

大阪市域では府営住宅建替え等に伴う試掘・確認調査を実施したが、顕著な遺構・遺物はなかった。

遺物整理事業

発掘調査と平行して、過去の調査で出土した遺物の整理事業も実施している。平成11年度は下記の事業を実施した。

平成9・11年度に行った府営美原南余部住宅建て替えに伴う余部遺跡（その1）、平成9・10年度に行なった都市計画道路千里丘寝屋川線建設に伴う高柳遺跡、平成9・10年度に行なった主要地方道茨木亀岡線改良に伴う安威遺跡、平成10年度に行なった国道309号線建設に伴う尾平遺跡と計4件の出土遺物整理事業を行い調査報告書を刊行した。

高校遺物整理事業として、四條畷高校建て替えに伴う雁屋遺跡等の出土遺物の整理事業を行なった。

平成9年度と11年度に行なった府営富田林線が丘住宅建て替えに伴う余部遺跡（その2）と平成7・8・10年度に実施した府営富田林線が丘住宅建て替えに伴う新堂庵寺及び、柑橘母樹園跡地整備に伴う陶邑窯跡群（谷山池12号窯跡）発掘調査の遺物整理事業を行なった。次年度以降順次報告書を刊行する予定である。

調査 番号	施設名	所在地	種別	調査開始	調査終了	実施面積 (m ²)	担当者	事業名
99001	相模中町道路	相模市東牧野町	発掘	H10.09.01	H12.03.24	9,380	山上 弘	府管牧野牧野東住宅建設
99002	横須賀都市道路	横市駿河町東～南牛町東	立会	H11.04.09	H11.04.09	150	竹原 伸次	一般市道深井煙山宿駿横共同建設
99003	西大井通跡	藤井寺市西大井1丁目	発掘	H11.02.15	H12.01.31	3,787	糸井 貞雄 竹原 伸次	大井通現場建設
99004	小島北線道路	長岡市御町小島	状況	H11.05.24	H11.06.01	56	今村 道雄	関西空港Ⅱ期土取場・ストックバイル部
99005	田井中通跡	八尾市田井中4丁目	発掘	H11.06.07	H12.01.14	315	藤原 透子	平野川改修
99006	木の本通跡	八尾市木の本2・3丁目	発掘	H11.05.24		60	横田 明	平野川改修
99007	能持寺道路	茨木市三丘庄2丁目	発掘	H11.05.31	H12.03.24	3,710	阿部 勝・ 猪俣三島丘(能持寺)住宅建設替え	
99008	蓬田御廟山古墳外周	羽曳野市蓬田	立会	H11.04.21	H11.04.22	168	森井 真雄 小畠 成	大水川改修関連水路付け替え
99009	瓜庭遺跡	大阪市平野区瓜庭西町1丁目	立会	H11.07.13	H11.07.22	500	糸井 貞雄 池村 伸次	府管瓜庭住宅建設替え
99010	坪ノ内・芦石道路	豊能郡能勢町山内	発掘	H11.07.29	H11.10.30	2,094	辻本 武	農村総合整備事業歌丘第2地区
99011	竹内街道	南河内郡太子町春日	立会	H11.07.15	H12.02.15	12	桃木 高明	右川左岸幹線第8工区
99012	難波大道	大阪市住吉区西畠	立会	H11.07.22	H11.07.22	12	桃木 高明	府管高田北住宅建設替え
99013	麻生中下代遺跡	貝塚市下田	発掘	H11.08.06	H11.12.14	1,350	鷹島 重則	府管貝塚半田住宅建て替え
99014	岡遺跡	松原市岡2丁目	発掘	H11.07.28	H11.08.31	122	西川 寿郎	坂原警察署交番建設
99015	吉井遺跡	守和町吉井3丁目	発掘	H11.04.09	H12.03.31	4,088	上林 史郎	府管守和田吉井住宅建て替え
99016	陶器南通跡	堺市南都北	発掘	H11.06.28	H12.05.31	1,400	地村 伸夫	ほ場監査事務陶器北地区
99017	穴町遺跡	羽曳野市穴町	発掘	H11.08.04	H11.08.16	70	桃木 哲	旧170号線歩道設置
99018	南山遺跡	寝屋川市稻作	確認	H11.08.26	H11.08.27	30	今村 道雄	せんなん里海公園整備
99019	田能南遺跡	高槻市田能	確認	H11.08.09	H11.08.09	12	箕 和之	農地運元利活用事業稲田地区
99020	帆糸街跡	泉南市馬場	立会	H11.08.26	H11.08.26	115	西口 陽一	府道泉佐野帆糸通歩道設置
99021	野々上西通跡	羽曳野市野々上5丁目	発掘	H11.08.30	H12.01.31	3,756	桃木 高明	府管羽曳野々上住宅建て替え
99022	蓮跡外	東大阪市新上小阪	試掘	H11.09.09	H11.09.21	25	佐久間 貴士	府管上小阪住宅建て替え
99023	米庵寺	貝塚市半田	発掘	H11.09.09	H11.11.17	20	鷗島 重則	府道大阪和泉東南北歩道設置
99024	柄山遺跡	南河内郡千早赤阪村柄山	確認	H11.07.30	H12.03.15	355	糸井 貞 桃木 高明	中山町地域能合整備事業(柄山地区)
99025	水路遺跡	八尾市堀部川	確認	H11.10.08	H11.10.08	1	藤田 道子	旧170号線歩道設置
99026	大田通跡	八尾市大田	確認	H11.10.19	H11.10.19	5	藤田 道子	旧170号線歩道設置
99027	神宮寺遺跡	八尾市神宮寺	確認	H11.10.25	H11.10.25	5	藤田 道子	旧170号線歩道設置
99028	根谷街跡	泉南市信達童子畠	立会	H11.10.20	H11.10.20	1,200	西口 陽一	府道泉佐野羽烈藤歩道設置
99029	神田北通跡	池田市神田1丁目	発掘	H11.11.01	H12.02.07	224	桃木 知秀	府道神田池田郷振幅
99030	遺跡外	泉南郡岬町多奈川東畠	立会	H11.10.08	H11.10.08	20	西口 陽一	関西空港Ⅱ期土取場
99031	遺跡外	貝塚占堀	試掘	H11.11.08	H11.11.10	16	今村 道雄	府管貝塚住宅建設
99032	遺跡外	貝塚市馬場	試掘	H11.10.21	H12.01.31	48	今村 道雄	泉州東部区域農用地総合整備事業
99033	遺跡外	守和町市原湯	試掘	H11.10.21	H12.01.31	64	今村 道雄	泉南東部区域農用地総合整備事業
99034	男星遺跡	泉南市男星	発掘	H11.11.08	H12.03.31	100	西口 陽一	府谷地域融合アシス整備事業(泉南地区) 瓦丁廻改修
99035	高向遺跡	河内長野市高向	発掘	H11.11.16	H12.03.31	80	広瀬 雅信	府管ため池整備事業(丹保池地区)
99036	池上曾根遺跡	和泉市池上町	発掘	H11.11.24	H12.03.31	330	西川 寿郎	都市前面道路池上宮城建設

第2表 平成11年度調査箇所一覧 (1)

調査 番号	地 名	所 在 地	種別	調査開始 日	面積 (m ²)	実施面積 (m ²)	担当者	事 業 名
99037	筑野本町道路	枚方市中本町	確認	H11.11.22	H11.11.22	3	穂田 明	府道枚方藤原線
99038	沢瀬尻道路	貝塚市沢	試験	H11.12.05	H11.12.02	10	今村 道雄	府管二色ノ浜公園整備
99039	平石古墳群	南河内郡河南町平石	確認	H11.12.07	H12.03.15	222	斧木 哲	中山間地域総合整備事業(平石地区)
99040	玉櫛道路	茨木市玉櫛	確認	H11.11.29	H11.12.07	81	佐久間 貴士	府管玉櫛住宅地帯替え
99041	食坂道路	豊能郡能勢町倉坂	発掘	H11.11.10	H12.03.24	2,590	辻木 武	農村総合整備事業「鉄鋼第2地区」
99042	田代南(その2)道路	高槻市田代	発掘	H11.10.21	H11.11.30	328	高 和之	農地還元利活用事業桜田地区
99043	田代南(その3)道路	高槻市田代	確認	H11.12.06	H12.03.10	128	高 和之	農地還元利活用事業桜田地区
99044	両造跡	松原市西2丁目	立会	H11.12.13	H11.12.14	40	西川 寿勝	府管松原川住宅下水管整設
99045	中神田道路	寝屋川市御幸西町	確認	H12.01.07	H12.03.15	460	櫻田 明	府管寝屋川御幸西町3期住宅建設
99046	住吉宮の前道路	池田市宮の前2丁目	確認	H12.01.24	H12.01.24	8	中井 貞夫	大阪空港水深改修
99047	大和川今池道路	松阪市天美西	立会	H12.02.06	H12.02.28	12	竹原 伸次	今池整理場建設
99048	山口山道路	枚方市	立会	H12.01.20	H12.02.16	260	佐久間 貴士	府管杉田口山口山歩道設置
99049	寛弘寺1号墳	南河内郡河南町寛弘寺	発掘	H12.02.01	H12.03.31	445	地村 浩司	農地開発事業「河南西都地区」
99050	田舎南(その4)道路	高槻市田舎	発掘	H12.03.10	H12.03.31	620	高 和之	農地還元利活用事業桜田地区
99051	西福井道路	茨木市西福井	立会			4	高 和之	茨木川改修
99052	熊神社占墳群	和泉市王子町	試験	H12.02.23	H12.02.25	60	西川 寿勝	都市計画道路大阪岸和田南海線建設
99053	丸笠山古墳	和泉市柏太町	試験	H12.02.21	H12.02.22	30	西川 寿勝	都市計画道路池上上下宮線建設
99054	道路外	南河内郡太子町仏眼寺	立会	H12.02.16	H12.02.16	40	地村 邦夫	太井川改修
99055	佛鏡・寺ヶ池道路	富田林市御歳	立会	H11.11.17	H11.11.17	100	斧木 哲	府管轄御歳山歩道設置
99056	葛城山頂道路	岸和田市塔原他	立会	H11.10.12	H11.10.18	590	高島 駿 三宅 正治	和泉葛城山古戦場整復
99057	道路外	泉南市信達岡	立会	H11.11.22	H11.12.06	750		府管地域総合オアシス整備事業(道光寺池)
99058	道路外	大阪市城東区岡目	試験	H11.12.15	H11.12.15	10	高島 駿	大阪府警察学校岡目校改築
99059	はざみ山道路	藤寺寺市藤丘	試験	H12.01.24	H12.01.27	76	広瀬 伸哉	都市基盤整備公使藤寺寺地盤で替え
99060	金剛西道路	岸和田市金剛町	発掘	H12.01.18	H12.06.15	1,561	今村 道雄	府道南花田風西町線建設
99061	野中寺跡	羽曳野市野中上	立会	H12.02.14	H12.02.14	25	広瀬 雅信	府道西藤寺寺線・羽曳野野線歩道設置
99062	木の本道路	八条市北木の本	確認	H12.02.29	H12.03.21	40	藤田 達子	平野川改修
99063	木の本道路	八条市南木の本	発掘	H12.03.04	H12.05.12	214	藤田 達子	平野川改修
99064	豈里曾泉道路	大阪市東淀川区菅原	試験	H12.02.28	H12.02.28	50	西口 陽一	府管菅原住宅地帯替え
99065	藤坂古墳	豈里曾遊跡町	発掘	H12.01.24	H12.02.08	1,200	樋口 伸男	ダイオキシン類廃棄改善
99066	猪作今池道路	阪南市猪作	立会	H12.03.03	H12.03.03	9	西口 陽一	猪作下水道阪南幹線整備
99067	男里道路	堺市男里	立会	H12.03.03	H12.03.03	98	西口 陽一	府管地域総合オアシス整備事業・東海南区段子上海改修
99068	粉川街道	岸和田市粉川町	立会	H12.03.15	H12.03.15	36	西口 陽一	浦岸下水道岸和田粉川線整備
99069	織之七十九坪道路	岸和田市織之1丁目	確認	H12.03.28	H12.03.29	46	上林 史郎	府管岸和田織之上住宅地帯替え
99070	鹿島郡多那道路	四條畷市移・鹿島	確認	H12.03.13	H12.04.11	293	佐久間 貴士 穂田 明	東部流域下水道むなわて水環境センター建設
99071	丹比柴原宮跡	松阪市新庄1丁目	確認	H12.03.24	H12.03.24	8	西口 陽一	府立生野高校同窓会館建設
99072	足底地区敷布地	羽曳野市足底	試験	H12.05.30	H12.03.30	5	斧木 哲	鳥羽技術センター新築建設

第3表 平成11年度調査箇所一覧(2)



第2図 発掘調査概要報告掲載遺跡位置図

発掘調査概要報告

招提中町遺跡 (99001)

- (1) 枚方市東牧野町 (2) 14,630m²
(3) 平成10年8月7日～平成12年3月24日
(4) 府営枚方牧野東住宅建替 (5) 山上 弘

府営枚方牧野東住宅建替に伴う招提中町遺跡の発掘調査は、平成10年度に工事予定地北側の約5千m²を、平成11年度に南側約1万m²を実施し、第1期工事の範囲を終了した。調査の結果、弥生時代の竪穴住居跡・方形周溝墓、古墳時代の竪穴住居跡、飛鳥時代の竪穴住居跡、平安時代の掘立柱建物等を検出した。

弥生時代

弥生時代の遺構は、前期の土坑・溝・ピット、中期の竪穴住居跡2棟・方形周溝墓12基と多数のピット等を検出した。

方形周溝墓は、初年度の調査分と合わせて29基を検出した。隣接地の市教委の調査で1基検出しておらず、合計30基の方形周溝墓が招提中町遺跡では検出されている。初年度の調査では単独墓1基と2列の周溝墓列が認められた。南に続く今回の調査地では、単独で造られた5基の周溝墓と溝を共有する7基の周溝墓を検出した。出土遺物は、中期前半を中心とした時期である。

竪穴住居跡は調査区の西端で検出した。地山の削平が著しく、壁溝の一部が残存していたのみである。住居跡のまわりで同時期の多数のピットを検出し、掘立柱建物跡や削平された竪穴住居跡が多数あるものと考えられる。

弥生時代の遺構分布を見ると、今回の調査地中央部から前年度調査地にかけて方形周溝墓群が分布し、調査地中央から調査区外の西側にかけて住居域が拡がるものと考えられる。住居域では、前期の竪穴住居跡は検出できなかったが、中期前半

の円形の竪穴住居跡を2棟検出した。溝・土坑およびその周辺に拡がるピット群からは前期新段階から中期前葉の遺物が出土した。方形周溝墓からの出土遺物量は少なく、個々の方形周溝墓の時期差を判別するには至っていない。中期前半に造営が始まるが、中期中葉以降には続かない。

古墳時代

古墳時代の遺構は、前期の竪穴住居跡6棟・土坑等を検出した。中・後期の遺構・遺物はほとんど検出していない。

竪穴住居跡は、前年度の調査分と合わせて13棟を検出し、調査区全域に分布する。平面形はすべて方形である。竪穴住居跡近くの方形周溝墓の周溝から多数の古墳時代前期の土器が出土することから、この時期でも周溝が浅く窪んで残っており、壊れた土器を溝に投棄したと考えられる。

この時期の遺物で周溝が埋没する方形周溝墓が数基あり、うち2基の方形周溝墓から生駒西麓産の庄内式土器の甕が出土した。方形周溝墓が削平され、周溝が完全に埋没するのは平安時代初頭である。

古代・中世

飛鳥時代の遺構は、竪穴住居跡5棟・土坑等を検出した。

竪穴住居跡の平面形はすべて方形で、1棟を除き北壁に竈を持つと考えられるが、削平が著しく、竈の構造が判明するものはなかった。

平安時代から中世にかけての掘立柱建物跡を14棟、焼土坑を7基検出した。



第3図 弥生時代中期の方形周溝墓



第4図 弥生時代のピット群

にしおおい 西大井遺跡 (99003)

(1) 藤寺市西大井1丁目407-1 (2) 3,787m²

(3) 平成11年2月15日～平成12年1月31日

(4) 大井処理場水処理施設建設 (5) 森井 貞雄・竹原 伸次

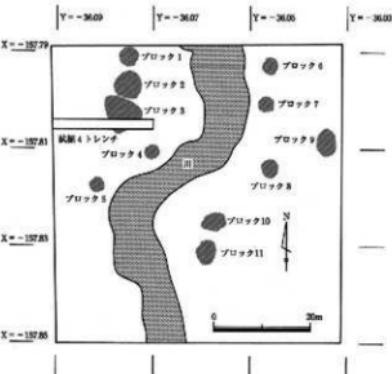
西大井遺跡は昭和54年の発見以来、大阪府教育委員会や(財)大阪府埋蔵文化財協会(現(財)大阪府文化財調査研究センター)によって、継続的に調査が実施されている。

この結果、大井処理場一帯は、平安時代前期から江戸時代中期にかけては水田や島畠であり、弥生時代後期から古墳時代前期にかけては、91-1、92-1調査区で約2,000基もの土壙墓群を検出し、この区域が一大墓域となっていたことを確認している。また、昭和54年の試掘4トレンチから1ヶ所昭和56年の第2次調査では、E区、F区の2ヶ所の後期旧石器時代のユニットを検出している。

今回の調査でも、平安時代中、後期の水田、江戸時代前期の島畠、江戸時代中期の水田を検出した。弥生時代後期から古墳時代前期の土壙墓群については、その南東端を確認することができた。

今回の調査区は、昭和54年の試掘4トレンチで後期旧石器時代のユニットを検出した地点にあたり、調査を実施したところ、11ヶ所のブロックを検出することができた。調査区は低位段丘面上に

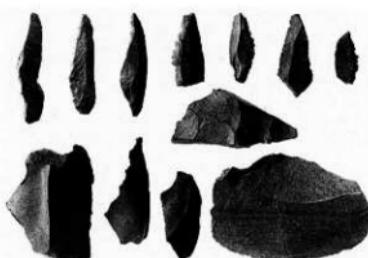
あたり、石器は段丘疊層の直上、緑灰色シルト層中から出土した。ブロックは、調査区中央部を南北から北に流れる小河川の左岸から5ヶ所、右岸から6ヶ所検出した。試掘調査の際に出土した位置は、ブロック3と一致する。石器の出土総数は65点である。製品は、国府型ナイフ形石器6点を含め瀬戸内技法関連の遺物が33点出土した他、横長ナイフ形石器1点、楔形石器が33点出土した。ブロック別では、瀬戸内技法を伴う石器群は、2・3ブロックに多く楔形石器は、ブロック9に集中し、石器組成が異なっている。また、E区ユニットは、先尖器や、角錐状石器を主体とした石器群であった。このことから、各ブロックは近接しているが、時期的な差異があると考えられる。



第6図 ブロック分布図



第5図 調査区位置図



第7図 出土旧石器

小島北磯遺跡 (99004)

- (1) 泉南郡岬町地内 (2) 20,700m²
(3) 平成11年5月24日～平成11年6月1日
(4) 関西空港II期土取り場 (5) 今村 道雄

遺跡の発見

小島北磯遺跡は、大阪府土地開発公社が計画実施しようとする多目的公園事業の用地造成に伴う土砂採取工事ストックパイル部建設工事に伴う試掘調査で発見された遺跡である。

位置と立地

遺跡の名称は、小島集落の人々が調査地一帯を「北磯」と呼び表していること、地籍図に小字名が表示されていないこと等について岬町教育委員会、小川氏の教示を得た。一方、周知の「小島東遺跡」とは離れていること等を参考にし、遺跡を「小島北磯遺跡」と名付けた。遺跡は、大阪市の南約60km、岬町役場の南西約4kmの大坂湾に面した浜辺にある。この浜の北と南側の丘陵は海まで迫り磯を形成し、両丘陵間の小さな谷が海にむかって開口するところにゴロタ石の浜辺ができる。その汀線は長さ100m足らずである。

試掘調査

試掘トレンチは、汀線際から谷奥まで約300mの間の平坦部に14ヵ所の試掘トレンチを設定した。トレンチの規模は縦2m×横2m×深さ1mで、機械掘削、人力掘削が各50cmの深さである。しかし、現地の地形や物件補償、調査後の現状復旧工事等について地元の協力が得られなかつたため、7～14トレンチは全て人力掘削で実施した。

試掘の結果

調査の結果、1トレンチでは炉跡を検出し、1・2トレンチかではGL-10数cmから1m余の深さまで弥生時代、古墳時代、平安時代頃の土器のほか多量の製塩土器片を含む、良好な包含層が認められた。3～8、14トレンチでは、地表下數10cmのグライ層から青磁、黒色土器、白磁、瓦器、須恵器等の何れかの破片が出土しているが、少量のうえ保存状態は悪く、後世の混入品の可能性がある。7トレンチで落ち込みを確認したが時期は明確でない。

9～13トレンチ 表土の下はシルト層や疊混じり土層が堆積し遺構は認められなかった。遺物も出土していない。

まとめ

本調査では、府道岬加太港線と西側の防潮堤の間の平坦地で製塩関係の炉跡と包含層を確認し、

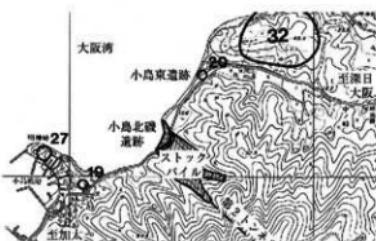
遺跡を新発見することができた。遺跡の範囲は、府道を越え、谷の奥方向へ拡がると思われるが範囲は未確認である。



第8図 小島北磯遺跡近景（北から）



第9図 石組炉跡



第10図 調査地および遺跡位置図

田井中遺跡 (99005)

- (1) 八尾市田井中4丁目 (2) 315m²
(3) 平成11年6月7日～平成12年1月14日
(4) 一般河川平野川改修工事 (5) 藤田 道子

田井中遺跡は旧大和川水系の流域に形成された河内平野に立地する。大阪府教育委員会は平成2年度から八尾空港北濠改修工事、平野川改修工事に伴い発掘調査を実施している。今年度の調査区は平野川上流部分全長63m、幅約5mの区域で平野川第7調査区となる。

これまでの調査で北濠地区で検出された田井中遺跡最初の環濠集落の様相がほぼ判明している。この集落は、弥生時代前期古段階に成立しその後中・新段階までの短い期間の間に拡大、そして解体する。最初の環濠集落は解体した後、東方の自衛隊駐屯地内に拠点をおく集団に吸収・統合されこの集団は弥生時代中期まで継続すると推定されている。

調査成果

今回の調査区は北濠地区と駐屯地地区の中間地点にあたり、弥生時代前期中葉から中期にかけての遺構、遺物を検出した。

調査地は平安時代以降条里型地割に沿った耕作地として開発されるまで起伏のある地形が存在していた。弥生時代前期には調査区のほぼ中央に谷部があり、埋没しながらも弥生時代中期まで存在していた。

この谷より西側ではベース面がわずかに微高地をなしたあと西側にゆるやかに下っていく。微高地に弥生時代中期の大溝、木棺墓、西端では弥生時代前期の溝、土坑を検出した。

谷より東側では弥生時代前期、中期の大溝、落ち込みを検出するとともに多量の弥生式土器の出土をみた。調査区東端ではベース面が一気に70cm近く上がり自衛隊駐屯地内の集落が存在する微高地につながっていくと思われる。谷部から出土した多量の出土遺物の時期は最初の環濠集落が解体した後となり、調査区付近は駐屯地西区の西限域と推定される。

3号木棺墓

平成2年度に検出された1号木棺墓、平成3年度に検出された2号木棺墓につぐ田井中遺跡3基目の木棺墓である。弥生時代中期前半の組み合わせ式木棺であり周溝は伴わない。墓坑掘り方は長さ110cm、幅49cmの長方形、検出深さは約13cm、棺の内法寸法は長さ78cm、幅35cmである。

田井中遺跡の木棺墓の構造は、3基とも小口板を墓坑底面より深く埋め込み、側板を小口板を挟むように据えるものである。とくに3号木棺墓は小口板、側板を裏込め土で厚く固定しており、上げ底状の構造になっている。木棺墓群は弥生時代中期の大溝に沿うように並んでおり、居住域と区切られた位置に墓域を形成していたと思われる。



第11図 調査区位置図



第12図 3号木棺墓

そ う じ じ 總持寺遺跡 (99007)

- (1) 茨木市三島丘1・2丁目 (2) 3,710m²
(3) 平成11年5月21日～平成12年3月24日
(4) 府営茨木三島丘住宅建て替え (5) 阿部 幸一

遺跡は、茨木市の東部、北摂山地から南へ舌状に派生する富田台地の、南西端辺部に立地している。標高は20m前後を測る。調査地の北約1kmには太田茶臼山古墳（繼体陵北定地）が所在する。

三島丘住宅建て替えに伴う調査は、平成6年（1994）から継続的に実施している。これまでの調査面積は約13,000m²で、弥生時代の円形周溝墓3基、古墳時代中期の古墳40基、古墳時代前期から鎌倉時代頃までの集落跡等が検出されている。11年度は、3地区（H地区約1,040m²、I地区約1,070m²、K地区約1,600m²）の調査を実施した。

H地区

市道とバス停留所部分で、これまでの調査地の北東側の位置である。平安時代後半から鎌倉時代頃のピットや溝、井戸、配石遺構、近世頃に開発された溜池などの遺構と瓦器碗や三足の瓦質羽釜、侃などの遺物を検出している。

ピットは殆どが柱穴で、径30～60cmの円形や隅丸方形を呈し、1,800個以上を確認した。特に北側が多く、1mあたり2個以上の密度で分布している。ピットには柱を残す物、地鎮のため柱の根元に瓦器碗を埋めたものもある。井戸はI地区を含め4基を検出したが、湧水層に達するものではなく、廃棄時に川原石を充填したものもある。配石遺構は、地山を約20cm掘り下げ、拳大の川原石を約3m四方に敷き詰めた遺構で、周囲に焼土ブロックが散乱していた。

I地区

94、98年度調査地の北側、市道の拡幅部である。古墳1基、奈良時代頃の掘立柱建物跡、平安時代から鎌倉時代頃の耕作溝などを検出した。

古墳（41号墳）は、北側が調査範囲外に広がる。墳丘部で東西約8m、南北5m以上を測る方墳で、周濠幅は約1.5m、深さ0.2mである。墳丘は削平されているが、埋葬施設が確認されないことから、他の40基の古墳と同様に木棺直葬と考えられる。周濠から5世紀中頃の須恵器や円筒埴輪、形象埴輪片が出土した。埴輪は小さく碎けているが、固まって検出されたことから人為的に碎かれて投棄されたと考えられる。この古墳はこれまで確認した古墳群中最も北に位置する。

掘立柱建物跡は、3棟以上を検出した。ピット内の遺物が少なく、時期を絞り込むことはできないが、方形の振形や大きさから奈良時代頃と推察される。

K地区

丘陵の南西端部にある。拡幅する道路部分と住棟部分の調査を実施した。弥生後期末頃の円形

周溝墓（4号墓）、土器棺、奈良時代頃の掘立柱建物、中世の配石遺構、掘立柱建物跡などを検出した。近現代の擾乱のためか、柱穴、ピット数は少ない。4号円形周溝墓は丘陵南端の南北方向の浅い浸食谷の西肩部に築かれている。盛土は奈良時代頃に削平されている。墳丘部は径約6mを測り、東の谷側に開口部がある。墳丘内と周溝の西側で土器棺を検出した。特に墳丘中央で検出した土器棺は、上部が削平され底面のみが残っていたが、ガラス製管玉が出土している。小児用の土器棺に裝身具を副葬する例としては、唐古健遺跡で弥生終末期のものからガラス小玉と管玉が検出されているが、畿内では類例が少ない。



第13図 K地区円形周溝墓（弥生後期末頃）



第14図 H地区平面図

応神陵古墳外堤 (99008)

- (1) 羽曳野市菅田5丁目 (2) 168m²
(3) 平成11年4月11日～平成11年4月12日
(4) 大水川改修に伴う水路付け替え工事 (5) 小浜 成

本調査地は、1978年10月に史跡指定された応神陵古墳外濠の隣接地で、大水川改修に関連する水路付け替えのため、1979年に試掘調査を実施し、翌年に保存協議のための発掘調査を実施した地点である。水路は外堤の残存部を避け、外環状線を暗渠で横断して付け替えられたが、排水不良の解消は大水川改修完成後の課題となった。当時外堤をポンプアップで迂回する案など保存策が検討されたが結論を得るに至らず、結局地元からの強い要望により、ボックスカルバートによる水路付け替えを実施することとなった。現況水田の部分は耕土内で構造物が収まるようにしたが、外堤上部については記録保存とせざるを得なかった。

この立会調査によって、1980年調査当時の遺構の遺存状況を再度確認することとなった。つまり、応神陵古墳外堤部分と、その内側法面および転落葺石が確認できた。外堤上面は後世にかなりの削

平を受けていると考えられるが、確認できる外堤形成土としては、下層から地山の段丘疊層である褐灰色砂礫土が約70cm以上、黄褐色砂礫土が約30cm、褐色砂礫土が約20cm堆積していた。その上層には、厚さ約5cmの暗褐色粘質土が認められたが、これより上層の約60cmの黄褐色砂礫土や黄褐色砂質土はレンズ状に積まれており、盛土だと考えられる。これら黄褐色砂礫土・砂質土は、地山に含まれる径3～5cm程度の礫を多く含んでおり、おそらく周濠掘削により生じた地山土を二次的に積んだと推測される。

外堤の内側法面も残存状況は良好ではなく、後世の田畠耕作による削り込みを受け、内側ラインは大きく後退してしまっていた。ただ、わずかに裾部は削平を受けずに残り、転落葺石層が遺存していた。

1980年調査で明らかとなった外堤内側法面据を輪郭づけた最大幅約5.0m、深さ約60cmの溝や外濠は、工事深度より下位にあったため、損壊を免れた。

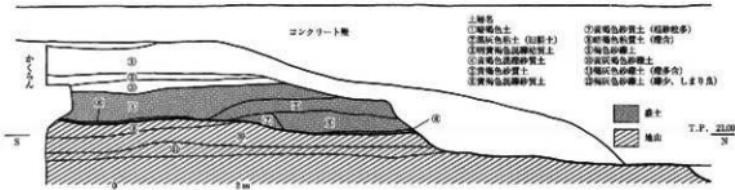
参考文献
大阪府教育委員会「応神陵古墳外堤試掘調査報告」大阪府文化財調査速報第31号 1980
大阪府教育委員会「応神陵古墳外堤発掘調査概要」 1981



第15図 調査区位置図 (1/1000)



第16図 外堤断面 (東から)



第17図 外堤断面図 (1/80)

坪ノ内・戸石遺跡 (99010)

- (1) 豊能郡能勢町山内 (2) 2,004m²
(3) 平成11年7月13日～10月29日 (4) 農業基盤整備事業「歌垣第2地区」 (5) 江本 武

位置と環境

当遺跡の所在する山内地区は、亀岡と川西・伊丹とを結ぶかつての交通路の要所に位置する。周辺には弥生時代から中世に至る各時代の遺跡が分布する。主なものを挙げると、弥生時代の各期の遺物が出土した稻荷社遺跡、当能勢地域では最大規模の群集墳である大貝谷古墳群、ダイオキシン対策で最近調査がなされた幕板古墳、終末期古墳として石室が良好に残存していた円山古墳群、壺のなかに一万枚以上の古錢が納められていた中世の埋蔵錢出土地などがある。

調査の成果

坪ノ内遺跡では古墳時代と考えられる溝を検出した。幅1.1m、深さ0.4mでY字状を呈して北へ流れ込むものである。出土遺物は少なく、土師器の細片がわずかに出土した。



第18図 周辺の遺跡

この調査区では中世に田畠として開発されたよう、その際に中世およびそれ以前の遺物を含む土砂でもって整地されている。この整地土層がいわゆる包含層となる。この層からは古墳時代から中世までの遺物が出土した。

そのなかで注目されるものは、3点の綠釉陶器である。大阪において官衙的性格の遺跡に出てくるものとされているが、当遺跡はそのような性格を全く考えることはできない一般的な集落遺跡で、そういうところで3点もの貴重な遺物が出土したことは、注目にあたいしよう。

戸石遺跡では中世と考えられる掘立柱建物1棟を検出した。規模は東西3間(7.2m)×南北2間(4.5m)である。他にピット群が検出されているが、建物として組み合わない。地形的に考えると、建物はこの1棟だけが建っていたようである。



第19図 坪ノ内遺跡C区南半部全景（北から）



第20図 戸石遺跡全景（南から）

麻生中下代遺跡（99013）

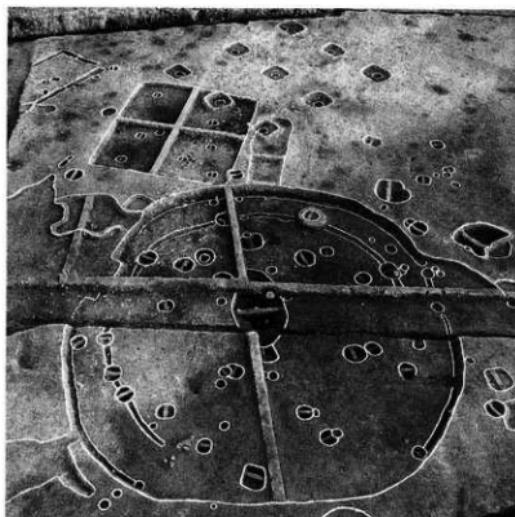
- (1) 貝塚市半田地内 (2) 1,350m²
(3) 平成11年8月6日～12月14日
(4) 府営貝塚半田住宅 (5) 亀島 重則

貝塚市の北部、麻生中・半田に所在する遺跡である。1996年～97年にかけて、遺跡の北部に位置する府営住宅の建替え工事に先立つ調査で古墳時代～奈良時代の住居跡をはじめとして、多くの遺構・遺物を検出した。北接する秦廟寺に含まれる地域にも、遺構群が拡がることから、全体が寺院に関連する遺構群との見方がされ、寺院建立の前段の時期から造営の時期に対応する遺構群との評価が与えられた。今回の調査では、秦廟寺関連の遺構だけでなく、あらたに弥生時代中期の住居1棟の他、土坑などが検出された。そこで秦廟寺関連遺構については、秦廟寺（99023）の項で扱うことにして、ここでは弥生時代の住居を中心と報告する。

調査区の中央部～南部の西寄りで竪穴住居1棟・土坑・溝・小穴が検出された。T.P.25.2～25.4mの緩い尾根状の微高地に立地する。竪穴住居は、径約8mの円形竪穴住居である。周壁下に幅18cm、深さ3～10cmの溝が巡る。周壁の最大遺存高24cmを測る。周壁は全体にはほぼ円形に遡るが、東北部の一箇所で住居内部へ突き出る。推定幅1.7mで、長さ約30cmの突入部である。住居内部中央に長軸1.5m、短軸1mの楕円形の炉穴がある。この炉を中心として同心円状に約6mの溝（幅6～8cm、深さ4～8cm）が巡る。他に径25cm～46cmの円形～不整円形の小穴が多数検出された。外側の周壁溝と内側の小穴群、内側の小穴群に重複する周溝とさらに内部の小穴群が関連をもち、主柱穴としてそれぞれ一棟の住居を構成すると考えられる。内側の小穴群と周溝の切り合い関係から内側の周溝が古い。この点から、当初径約6mの住居が構築された（住居A）後、居住空間を拡張すべく同心円状に面積を拡大したもの（住居B）とみられる。住居Bにみられる突入部は、入り口あるいは土壇と推定される。住居

内は出土した土器から弥生時代中期中葉～後半（第Ⅲ様式古・新段階）と考えられる。住居の拡大が同心円状に行なわれている点から、同一家族の建て替えといえる。住居Aは径約6m、面積28.26m²、住居Bは8mで、面積50.24m²で、面積比約1.8倍となる。遺構が立地する微高地は南東に向高まり、また西方にも尾根状に伸びることから、これらの未掘地域に住居群が展開することも充分予想される。

周辺の弥生時代遺跡は、貝塚市域に限っても十数箇所数えられる。しかし、具体的な様相を知り得る遺跡は近年発掘された石才南遺跡を除くと、事例に乏しい。泉州南部、とくに貝塚市周辺から南では、北部に比べて弥生時代の遺跡やその調査事例が少ない。通時に遺跡・遺跡群の動向を追い、さらに遺跡のディテールまで具体的に明らかにし、弥生時代の集落像を復元する作業ができていない。この点から今回の調査で得た成果が今後の調査研究に寄与するものは大きいといえる。



第21図 竪穴住居（弥生期・飛鳥期）、総柱建物（奈良期）

おか 岡遺跡（99014）

- (1) 松原市岡2丁目 (2) 122m²
(3) 平成11年7月28日～平成11年8月31日
(4) 大阪府警松原岡交番建設 (5) 西川 寿勝

大阪府警松原岡交番建設に伴う調査

今回調査区に近接する場所で府営住宅建て替えに伴う住棟の調査が行われており、南東で中世建物群と井戸などが、南東で中世の铸造関連遺構と奈良時代の掘立柱建物群が発見されている。

調査区は東西10m、南北約13mの方形である。現代の盛り土直下に旧府営住宅の基礎や道路側溝などがあり、その下に部分的な水田耕土がみられた。水田耕土を除去すると層厚約10cm前後の茶褐色土層が部分的に残されていた。この層が水田床土にあたり、古墳時代から中世までの遺物をふくむ包含層である。包含層を除去すると黄褐色粘土の地山となる。遺構はすべて地山面で検出された。

発見遺構には土坑、溝、井戸がある。しかし、攪乱、削平の及ぶ範囲が広く、破壊された柱穴などを考慮しなければならなかった。

発見遺物はコンテナ3箱に及ぶ。古墳時代後期の須恵器・奈良時代の土師器、須恵器・中世の瓦器・土師器、近世の瓦・陶磁器・木器がある。

奈良時代後期の土師器壺・須恵器壺・蓋壺などが調査区北西からまとめて発見されている。遺構に伴うものではないが薄く炭層も確認されたので、住居か浅い廐棄土坑だったと予想する。

今回の調査では奈良時代後期・中世・近世にわたって生活の一端があったことを知ることができた。ただし、遺構・遺物は削平や攪乱などで破壊された部分が多く、良好に痕跡が残されていなかった。本来の姿は十分にうかがい知れない。

平成4年度の調査では奈良時代後期の建物群が調査区南西から発見されており、今回は良好な遺構は検出できなかったものの、壺・壺などの出土から集落の広がりがこの地域まで及ぶと予想できた。逆に中世の遺構・遺物は他地区より閑散としており、今回調査区が中世集落の北限を示すかもしれない。

調査区北側から発見された井戸に取りつく溝は近世の開削である。前回の調査で発見された溝につながるもので、東西に直線的なことから耕地境界を兼ねていたのだろう。近世以降の条里制水田の区画に対応する可能性もある。ただし、この地域の条里制区画は古代から中世までさかのぼると予想されている。今回発見の東西溝は中世までは

及ばないことから、坪境に関わるものではない。

下水道管理設に伴う調査

本調査区の南20mの地点において、府営岡住宅に伴う下水道管理設事業が計画された。計画地のうち浄化槽の建て替えについては以前の調査地内に収まるため問題は生じなかった。しかし、浄化槽に取りつく埋管の付設については未調査地を深く掘削するため、立合調査を実施した。

調査地点は三か所にわかれ、99-1区は以前に調査された93-住棟A区の北西に取りつく東西約10m、幅約1mの設定である。99-2区はおなじく調査された93-浄化槽部調査区から北に取りつく位置に南北約10m、幅約1mの設定である。99-3区は99-2区の北から東に向って東西約20m、幅約1mに位置する。

いずれの調査区も上層に厚い盛り土をともないこれを除去して遺物包含層を確認した。しかし、三調査区はすでに遺物包含層である茶褐色土層が残されておらず、地山に切り込まれた遺構も発見できなかった。したがって、遺物も発見されていない。該当地は岡遺跡内でもっとも高い段丘上に位置することから、旧府営住宅建設に伴い、すでに削平・整地されていたようである。

以上の詳細については本年3月刊行報告書「岡遺跡」を参照されたい。



第22図 交番建設に伴う調査区全景

吉井遺跡（99015）

- (1) 岸和田市吉井町3丁目 (2) 4,050m²
(3) 平成11年9月1日～平成12年3月25日
(4) 府営岸和田吉井第4期高層住宅 (その1) 建替 (5) 上林 史郎

本遺跡は、本府教育委員会による試掘調査によって平成元年度に発見された遺跡である。府営岸和田吉井住宅建替に伴う発掘調査は、今回の調査が初めとなる。本調査区で検出された主要な造構は、弥生時代後期から鎌倉時代の掘立柱建物、ピット、欄、井戸、溝、大溝、土坑、粘土取りの穴などがある。建物やピットは、調査区の西南隅で密集して検出された。また建物は、約10cm程度の整地土を盛った後、その上面から掘り込まれていた。おそらく、地山が湿润な砂質土で軟弱であったため、黄褐色系の粘質土を新たに盛って建物を建築したものと考えられる。B調査区では、東西方向に伸びる古墳後期から奈良中期にかけての大溝が一条検出されている。この大溝は、全幅はしていないが、長さ50m以上、幅15m以上、深さ2.2m以上の大規模なものであることが試掘調査で判明している。

木簡 今回報告する木簡は、試掘調査区の16トレンチから出土したものである。このトレンチは東から西に伸びる大規模な大溝の内部にあたっていた。大溝の堆積は、上から暗灰色粘質土(0.25～0.4m)、黒色粘質シルト(0.1m)、黒灰色粘質シルト(0.55m)であり、地山は灰色砂礫土となる。木簡は暗灰色粘質土の中程から出土したが、大溝が機能しているときに廃棄されたのではなく、大溝が機能を停止し、ヘドロが堆積していく過程で廃棄されたものと考えられる。そのため、木簡は大溝底面から、0.2m上で検出された。このことは、大溝が古墳後期に掘削され機能していたが、奈良中期頃に機能を停止し徐々に埋没していく過程を示している。なお、木簡は上下を欠失しているが、法量は現存長32.6cm、幅3.8cm、厚さ0.55cmをはかる。また、木簡は裏面を上にして中央やや下寄りから折られていたことが、破断面から理解することができる。さらに、墨の残り具合が表面の方が悪いことから、一定期間、外気に曝されていたものと考えられる。それに対して、裏面は湿润な粘質土中にあったため、墨痕があざやかに遺存していた。今、肉眼や赤外線カメラによって判読している限りでは以下のようになる。

表・×□□□不得□…×若犯之□□□×

裏・天平寶字三年四月十六日主守六人部×

木簡に書かれている文字の内容は、律文に関するものと考えられるが、現在遺存している唐律疏議や日本律令にはみられない。表面の文字は、読めない文字が多い。確実に読めるのは「若犯之」だけである。これは「若し之れを犯さば…」と読める。おそらく、ここで、墨を浸けなおして文字を書き始めたため三文字が明瞭にのこったものと考えられる。ただ、それ以外の字は明確ではない。

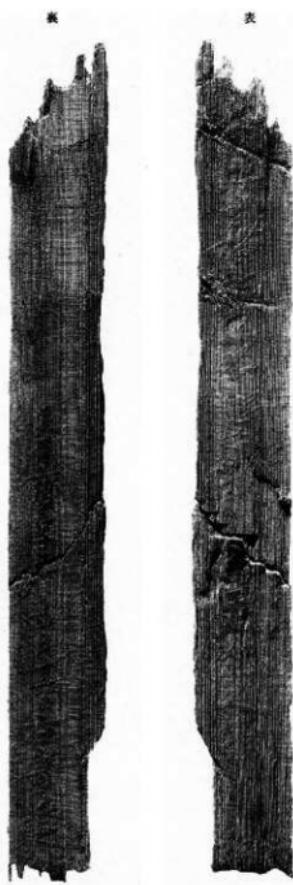
裏面は、全文字解読できた。「天平寶字三年」は西暦七五九年にある。この年は、「續日本紀」の記述では「廢帝」と表記された淳仁天皇の治世であった。また、年号と年月日が同時に記載されており、その日が特別な意味をもつ日であることが理解できる。また、「主守」については、「令義解」卷十の「獄令」に次の記述がある。「主守申譯。謂。主守者。主當獄囚之物部也。」とある。「主守」は、当時の刑部省の下級官庁にあたる囚獄司の役職名である。衛府が逮捕した罪人や諸司から送致された徒（懲役刑）以上の罪人の拘禁や、徒罪人の労役の監督、配流・決杖をつかさどり、伴部である物部が執行を担当したらしい。現在でいえば、拘置所や刑務所の役人にあたるものであろうか。

次に「六人部」は、「新撰姓氏錄」（弘仁六年・八一五）の和泉国諸蕃に「六人部連。百済公と同じき祖。酒王の後なり。」などとみえ、六人部連氏が百済からの渡来系氏族であることがわかる。おそらく、奈良～平安時代に六人部・連氏が和泉国に帰郷していたのであろう。

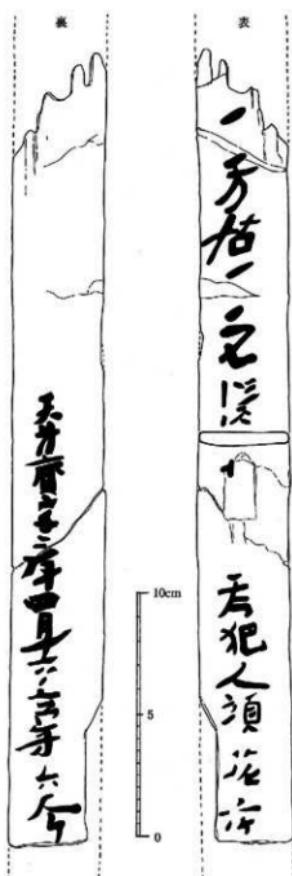
要約すれば、天平寶字三年（七五九）四月一六日付で、中央省庁である刑部省の下級官庁にあたる囚獄司の主守であった六人部某が、吉井遺跡周辺に存在した公的施設に発給した木簡と考えられる。表面の文面は判読できないが、「若し之れを犯さば…する」というように、律文の言い回しを踏襲していることからすれば、何らかの罰則規定が盛り込まれたものと考えられよう。何れにせよ、本木簡の出土によって当時の役職名や役人名、ある程度の文言の内容が判明したことは重要であろう。



第23図 調査区位置図 ($S = 1/25000$) 國土地理院による



第24図 吉井木簡写真 ($S = 1/2$)



第25図 吉井木簡実測図 ($S = 1/2$)

とうきなんみ
陶器南遺跡 (99016)

(1) 堺市陶器北、上之 (2) 1,594m²

(3) 平成11年8月3日～12月27日

(4) 陶器北地区府営ほ場整備事業 (5) 地村 邦夫

陶器南遺跡の調査は平成6年度から実施している。これまでの調査では古墳時代、奈良時代の須恵器生産に関連したと考えられる集落、平安時代後期～中世の集落・居館が検出された。今年度は新池と呼ばれる農業用ため池の周辺を中心に8カ所の調査区を設定し、調査を実施した。

第1、2調査区は、ともに削平が著しかったが、第2調査区では隣接する平成7年度4b調査区で一部検出された平安時代～中世の掘立柱建物の統計を検出した。また既往の調査結果から遺構の密度が薄いと考えられていた第1調査区からは古墳時代～中世の土器、陶磁器が多数出土し、削平を免れた地点ではやはり平安時代～中世の掘立柱建物1棟を検出した。

第3～5調査区はこれまでの調査で最も標高の高い地点に設定した調査区である。第3調査区において多数のビットを検出したが、建物は復元できなかった。第4、5調査区では遺構の数は少なかった。しかし第4調査区では幅2.2～2.3m、深さ0.6mと比較的規模の大きい中世の溝を検出しておらず、この溝が既往の調査で検出されている居館と関係があるかどうかで、その評価は大きく変わるものと思われる。第5調査区は旧谷筋の縁辺部にあたり、特に地形の凹凸が著しい南部では中世以前の遺構は全く認められなかった。

第6調査区は新池の東隣に設定した調査区である。新池は旧谷筋を堰き止めて造られた池であり、第6調査区は旧谷筋の中央に位置している。調査の結果、やはり谷を検出した。谷埋土には古墳時代～奈良時代の須恵器が多量に出土した。溶着した須恵器片、窯壁片が含まれており、谷上流で検出されている須恵器窯から流れてきたものが大半を占めていると考えられる。埋土には瓦器など中世の遺物も含まれており、第6調査区の谷筋を挟む形で検出されている居館の時期である平安時代後期～中世にかけて、まだこの谷が完全に埋没していないかったことは確実である。居館の構造を考えるひとつの手がかりが得られた。また谷筋は新池に向かって急に深く落ち込んでいくが、湧水が激しく、調査区東端部では谷の底まで完全に検出することはできなかった。

第7調査区はビットを中心とする遺構を検出し

たが、削平が著しく、時期を明確にできるものは少なかった。

第8調査区は今年度の調査区の中では最も南に位置している。中世のビットおよび溝をはじめとする遺構を検出したが、調査区が狭小である上、近世以降の土地の変更が著しく詳細を明らかにすることはできなかった。



第26図 調査地点 (S = 1 / 50,000)



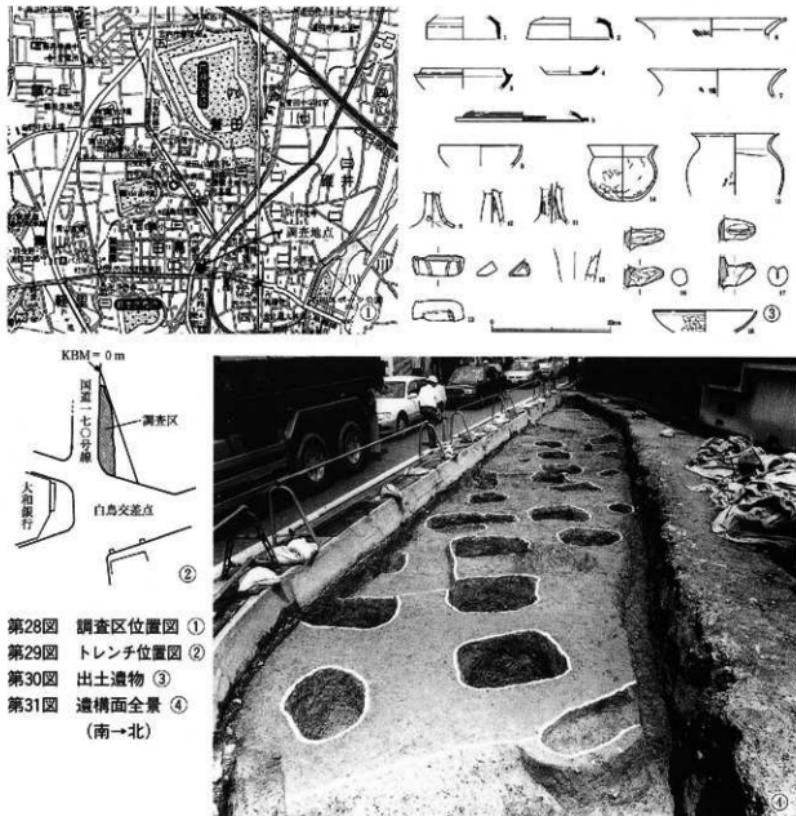
第27図 第1調査区 (西から)

かえまち
栄町遺跡 (99017)

- (1) 羽曳野市栄町 (2) 70m
- (3) 平成12年8月4日～平成12年3月31日
- (4) 旧170号線歩道設置 (5) 桥本 哲

今回の栄町遺跡の調査地点は、近鉄古市駅西100mの国道170号線、白鳥3丁目交差点北東角の南行き車線である。トレーニング幅は北で0.5m、南で4.0m、延長24mである。現地表面下30cmの黄色粘土面で、掘立柱建物跡、流路跡、その他落ち込み跡を検出した。建物は少なくとも3棟を想定でき、N-20°-E前後ではほぼ軸を描えている。柱穴の方形掘り方はすべて埋め戻され、その暗褐色主体の埋土より出土した遺物のうち時期の分かるものとしては6世紀後半の須恵器杯(2, 3)

がある。同じ暗褐色粘土質が堆積した落ち込みからは6世紀中頃から後半の土師器・須恵器片(1, 4, 9-11)が出土している。南端の深さ0.5mの流路堆積土では7~8世紀の土師器(14, 15)が、そしてその上層では瓦器(18)が出土している。なお、これらの遺構面を覆う包含層からも土師器・須恵器片(5~8, 16, 17)瓦器片に加えて、形象埴輪片(12)、輪の羽口片(13)が出土している。



たのう 田能地区遺跡群の調査 (99019・99042・99043・99050)

- (1) 高槻市大字田能地内 (2) 966m²
(3) 平成11年8月9日～平成12年3月24日
(4) 農地還元利活用事業(桜田地区) (5) 奥 和之

1.はじめに

調査は、まず圃場整備工事予定地内全域の遺跡確認調査を実施し、遺跡の有無を確認した後、今年度工事によって遺跡が破壊される地区に限って、発掘調査を実施した。

高槻市大字田能地区は、大阪府の北東部に位置し、北を龜岡市、東を京都市と接する北摂山地内の狭い山間盆地に立地している。歴史的には、鎌倉時代前期に建立された神宮寺、櫻船神社。また、室町時代末期の山城である田能城跡が盆地西北の山腹に存在する。

2. 遺跡確認調査の概要

工事予定地内全域に、トレントを36箇所設定し遺跡の有無を確認した。その結果、新規発見の遺跡1箇所、遺跡の範囲拡大3箇所を確認した。

田能北遺跡周辺地区 盆地の北に位置し、遺跡は、ほぼ東西に走る田能川の支流の溝によって、2地区に大別できる。遺跡は、中世を中心とする時期で、田能北遺跡の範囲拡大とした。

田能城跡周辺地区 盆地の北西、南北に伸びる谷の西斜面上に存在する。圃場整備予定地内での遺跡の範囲は狭いが、南側の集落へ続くものと予測される。遺跡の時期は、中世と推定され、田能城跡の範囲拡大とした。

田能南遺跡周辺地区 盆地の南に位置し、田能川西岸と東岸とに分けることができる。時期は中世と推定され、田能南遺跡の範囲拡大とした。

神宮寺西遺跡周辺地区 田能地区的南端の田能川の東岸に位置する。時期は、中世と推定され、新規発見の遺跡で、神宮寺西遺跡とした。



第32図 神宮寺西遺跡建物

3. 発掘調査の概要

神宮寺西遺跡 調査面積は約328m²を測る。検出した遺構は、鎌倉時代初頭の建物2棟、平安時代中期の溝などである。建物は、母屋と推定される柱間が3間×1間(7m×4m)と倉庫と推定される1間×1間(2.8m×2.8m)で構成される。

田能城跡 調査面積は約494m²を測る。検出した遺構は、鎌倉時代の屋敷の区画2箇所、建物1棟、土坑4基、溝、石垣1基、柱穴などである。

屋敷の区画は、山側に排水路と推定される溝を配置し、その内部に、建物には至らなかったが、多数の柱穴および軒跡、土坑などが存在する。

4.まとめ

今回の遺跡確認調査によって、従来からの周知の遺跡に加えて、新規発見の遺跡1箇所、遺跡の範囲拡大3箇所が新たにわかった。また神宮寺西遺跡、田能城跡の発掘調査によって、屋敷と推定される区画、建物跡、土坑などが検出され、大きな成果を挙げることができた。これら遺跡の時期は、出土遺物から中世のものが最も多く、鎌倉時代初期を前後として、この小盆地が開発されたことを物語っている。



第33図 調査地位置図

野々上西遺跡（99021）

- (1) 羽曳野市野々上5丁目 (2) 3,750m²
(3) 平成11年8月31日～平成12年3月31日
(4) 府営野々上住宅建替え工事 (5) 橋本 高明

当遺跡は羽曳野丘陵の北端に位置し、国史跡野中寺跡の北側にある。

府営住宅建替え工事に伴い試掘調査を実施したところ、奈良時代の遺物包含層が発見されたため新規発見の「野々上西遺跡」として発掘調査が実施されることになった。

今回の調査地の基本的地形は北に向かって傾斜する緩やかな斜面地にあたるが、現地形は府営住宅建設時に「雑壇」状に造成されている。したがって調査地南部の地形の高い部分は削られており、北部に遺物包含層や遺構が比較的よく残っていた。

谷 調査区の北部の中央付近に北に向かって緩やかに落ちる谷を検出した。幅5～6m、深さ30cm～50cmである。出土遺物を見ると、奈良時代の遺物が集中しておりこの時期に埋没したと考えられる。この谷は、北へ約100mのところで東西方向に走る「古市大溝」にあたることが現地形からも確認することができる。

谷の埋没は、「古市大溝」が奈良時代にはこの付近では機能を失い、埋没していたことに起因すると考えられる。



第34図 位置図



第35図 出土遺物

秦廢寺（99023）

(1) 貝塚市半田地区 (2) 2,300m²

(3) 平成11年9月8日～11月17日

(4) 府道大阪和泉泉南線歩道設置 (5) 龜島 重則

秦廢寺は貝塚市の北部、半田に所在する。古くから熊野詣の王子のひとつである麻生川王子跡にあった神社跡地で古瓦が多く採集され、白鳳期に建立された寺院跡と考えられていた。1979年、貝塚市教育委員会により発掘調査が開始されたが、以後1993年に調査が実施されただけで、寺院に関する明確な遺構の検出には至らなかった。1996～97年にかけて半田集落の南に接する府営半田住宅の建て替え工事に先立つて発掘調査が実施された。ここでは、6世紀後半から8世紀前半にかけての土坑・溝・堅穴住居・掘立柱建物・道路跡などや寺院に供された大量の瓦や土器などが検出された。秦廢寺建立の前段の時期から造営の時期に深く関わる遺構群との評価が示された。府営住宅の調査は、本年度も実施され、先の調査につづいて多くの遺構が検出された（麻生中下代遺跡99013）。

今回の調査は、府営貝塚半田住宅の東縁に沿った延長200mの歩道区間である。調査区が狭長な上に遺構面まで確認できた箇所が少なかったが、遺物包含層・土坑・小穴や浅谷などの微地形を検出した。遺構は本地点の西側・府営住宅地区で検出した遺構群につながる性格のものである。周辺の半田・麻生中下代遺跡に含まれる地域からも秦廢寺と密接に関連する遺構や遺物が出土しており、これらもふくめて調査成果の整理を行なう。

府営住宅の調査では検出された道路や段状遺構をもとに地籍図などの判読や小字名から半田集落内に一町四方の範囲を寺域と想定している。しかし、寺域内部については調査事例が少なく、伽藍配置などの構造についてはまったく不明である。詳細については、将来の調査に待つかない。現状で知り得る所見としては、寺域周辺に展開する関連遺構群のみである。これらの遺構群の様相から秦廢寺建立の前段からその盛衰を追ってみる。

府営住宅地区から古墳時代後期（6世紀後半）の土坑などが検出されている。遺跡の東縁部に集中しており、さらに東の半田遺跡へ広がる様相を見せていて、居住区の存在が強く想定される。東南には同時代の窯跡群があり、経済的な基盤のひとつとして経営し、小規模ながら古墳建築（海岸寺山古墳群）を行なった集団の存在が認められる。ついで、7世紀前半になると、府営住宅地区に堅穴住居群ができる。溝によって画されたいくつかの居住単位があり、住居規模にも若干違いとまとまりが認められる。寺域地区では豊浦寺式軒瓦を

使用した仏堂程度のものが作られた可能性があるが、確証できない。7世紀末になると、寺域地区で、本格的な寺院伽藍の造営が開始されたと考えられる。この事業は8世紀中頃まで続いたと推定される（紀寺式・池田寺式）。7世紀後半、居住区は半田地区に移る。以後、半田地区に居住域が定着する。8世紀になって府営住宅地区では、寺域の南前面に掘立柱建物群が数時期を経て、築造される。秦廢寺の立地する尾根上微高地の裾に当たる半田地区では、北流する自然流路を人為的に埋め、耕地や居住城の拡大を図ろうとしている。9世紀初には寺域南辺で廃棄した瓦砾が示すように寺院の衰退化が見られる。以後室町時代まで、小規模な堂舎が存続したと考えられる。半田地区では、9世紀中頃まで建物群の存在が確認される。6世紀から9世紀に至るまでこの地に居住した集団は、当初窯業生産にも関わりをもちつつ、古墳建築も行なうなど次第に地域に一定の政治的実力を形成してきた。これらの点をふまえて文字史料から有力氏族を見た場合、「新撰姓氏録」にみられる秦廢氏に系譜を残す集団の可能性は高い。



第36図 位置図

桐山遺跡（99024）

- (1) 南河内郡千早赤阪村桐山 (2) 355m
(3) 平成11年7月30日～平成12年3月31日
(4) 中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」 (5) 橋本 高明

はじめに

桐山遺跡は、千早川とその支流である足谷川にはさまれた標高130m～170mの金剛山系から北方にのびる丘陵上に位置する。

遺跡の中央部には「楠木邸伝説地」の石柱が立ち、周囲の田畠には「古屋敷」、「井戸尻」、「花屋敷」、「光明院」などの楠木正成に由来すると思われる小字名が残る。

今年度の調査は、事業地内の遺跡の分布、残存状況を知るために実施された試掘調査である。

調査は、「楠木邸伝説地」の石柱の立つ高い丘陵頂部と周囲の田畠および農道予定地である旧富田林高等学校千早分校の南部にトレンチを設定した。

調査の概要

「楠木邸伝説地」付近は、標高165m前後の丘陵頂から北方と西方に尾根が張り出す。この付近は、北方に向かって非常に見晴らしが良く大阪市内まで見渡すことができる。各トレンチからは、土師器、瓦質土器、磁器、瓦などが出土した。

周囲の田畠に設定したトレンチの様相を見ると、谷部分以外に設定したものからはほとんど遺物は出土している。土師器、瓦質土器などがある。特に「楠木邸伝説地」の北方に設定したトレンチからは瓦が多量に出土した。小字名「光明院」に関するものかもしれない。

旧富田林高等学校千早赤阪分校の南部に設定したトレンチは、表土を除去すると地山が確認された。学校建設時に大きく削られたものと思われる。

今回の調査で検出された遺物を見ると、基本的には土師器、瓦質土器、磁器、瓦など中世のものが中心である。しかし、若干ではあるが、中世の時期の遺物包含層に混じって奈良時代の須恵器、弥生時代の石錐やサヌカイト片が出土している。

中世以前のこの地域の様相も興味深いものがある。



第37図 出土遺物



第38図 位置図

豊湯地区・馬場地区の調査（99032・99033）

- (1) 貝塚市馬場地内・岸和田市摩湯町地内 (2) 64m²・48m²
(3) 平成11年12月8日～平成12年1月31日
(4) 農用地総合整備事業 (5) 今村 道雄

はじめに

緑資源公団は、大阪府下で農業振興・整備事業として17団地、158haの箇所を選定し、平成5年から同8年実施設計、平成9年事業認可、平成10年事業着手に至っている。今年度、本府教育委員会は公団と協定書を締結し、2団地の試掘調査を行った。

摩湯町地内

試掘トレンチは、松尾川右岸に14ヵ所、左岸に2ヵ所の合計16ヵ所である。トレンチの規模は縦、横各2m、深さ1.2mである。

調査の結果

6トレンチの地表下62～90cmの土層から瓦器、土師器片が出土した。粗の下に深さ約10cmの遺構埋土と考えられる土層を観察できた。7トレンチでは、地表下約1mに数条の小溝が存在するのを土層断面観察で確認できた。

まとめ

包含層と遺物の分布範囲は、東、南、西側は近接した5、8、9、10トレンチ近辺まで拡がり、北側は事業予定地を越え、和泉市側に拡大することも考えられる。新発見の遺跡である。

馬場町地内

試掘トレンチは、事業予定地に16ヵ所設定し土層の断面観察を中心に調査を行った。トレンチの規模は機械掘削が可能な箇所は縦、横各2m、深さ1.2mとし、機械掘削が不可能な箇所は縦1m、横2m、深さ1mである。

調査の結果、4トレンチの地表下約70～120cmの土層から瓦器や土師器片が10数点出土している。遺構は認められなかった。

4トレンチ以外では、1、6、11、13トレンチなどから数点の須恵器片、土師器片が出土しているが、後世に混入したものと考えられる。

まとめ

今回の調査によって4トレンチから新たな遺跡を見つけるにいたった。遺跡の範囲は、2、3、5、13トレンチ付近まで拡がる可能性が考えられる。



第39図 摩湯地区周辺地形図



第40図 岸和田市摩湯地内NO.6トレンチ北壁



第41図 馬場地区周辺地形図



第42図 貝塚市馬場地内NO.4トレンチ北壁

おのさと
男里遺跡（99034）

(1) 泉南市男里 (2) 100m

(3) 平成11年11月8日～平成12年3月31日

(4) 府営地域総合オアシス整備事業（泉南地区・双子池改修工事） (5) 西口 陽一

男里遺跡は、弥生時代から中世にかけての集落遺跡である。大きさは、南北1,300m東西900mをはかり、泉南市域で最大のものである。既往の調査では、弥生中期の堅穴住居や方形周溝墓、平安～鎌倉時代の掘立柱建物などの多数の遺構が検出され、製塩土器やマダコ壺、土鍬など海に近い集落ならではの遺物も多数出土している。

今回の調査は、遺跡のほぼ中央部にある双子下池の堤改修工事に伴うもので、堤体の盛土、池底のヘドロは重機で除去した。池底部に遺構は残っていなかったが、堤体の下には、中世および庄内期の遺物包含層、多数の遺構が残っていた。

掘立柱建物は、西側が大きく削られていたため全形は不明であるが、梁間1間、桁行2間の南北棟の建物である。柱穴は、径20～40cmあり、柱の痕跡も残っていた。柱穴出土の高杯により時期は庄内期と判明した。井戸は、平面が橢円形の素掘りで、長径が2mあった。その他、多くのビットがあった。中には、柱痕の残っているものもあり、一帯に庄内期の掘立柱建物群の存在していたことが判明した。

また、今回、堤の内側に堤と平行する幅1.5m深さ1.3～1.6mの断面T字形の溝が長さ8.5mに

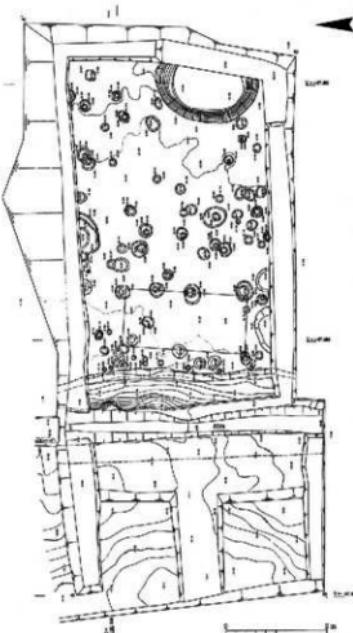
わたって一直線に検出された。埋土は、黄褐色シルトや橙色粘質土で、非常に堅く締まり、均質な土質であることから「鋼土」と考えられた。溝の埋土中からは中世の遺物が多く出土した。

今回の調査で、過去5年に及んだ双子下池の発掘調査は完了した。

一連の調査によって確認された遺構や遺物を大きく分ければ、①弥生時代中期後半、②弥生時代後期～古墳時代前期、③7世紀後半～8世紀初頭の3つの時期に分けることができる。なかでも、当遺跡においてデータ的に希薄であった弥生時代後期～古墳時代前期に関する多くの情報が得られたことは特筆に値するだろう。



第43図 調査区位置図



第44図 調査区遺構平面図

高向遺跡（99035）

- (1) 河内長野市高向 (2) 80m² (3) 平成11年11月11日～平成12年3月11日
(4) 府営溜池等改修事業丹保池改修工事
(5) 広瀬 雅信(府教委)、尾谷 雅彦、藤原 哲(河内長野市教委)

経緯

大阪府では農業基盤整備の一環として、老朽化した溜池の改修事業を進めている。当遺跡に含まれる丹保池も堤体の改修が必要となったため、文化財保護課では環境農林水産部農の振興整備室との協議に基づき、平成10年度に池内の確認調査を実施した⁽¹⁾。その結果、池内の大半は池兼造時に造構面以下まで大きく掘り下げられていたものの、北と東の堤体に近い部分では掘立柱建物を含む奈良時代から中世と考えられる造構面が良好に遺存していることが判明したため、改修で毀損される部分について平成11年度から2年に分けて本発掘調査を実施することとした。本概要報告はその初年度、80m²分に関するものである。本発掘調査の実施に当たっては、河内長野市教育委員会の全面的な協力を得た。

調査結果

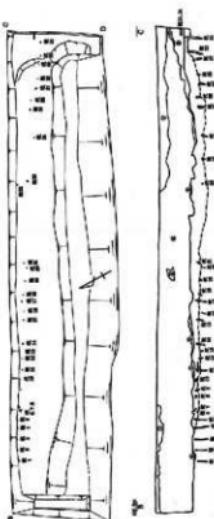
調査は、丹保池北側堤体の内側の狭い平坦面に幅4m、延長20mのトレンチを設定して実施した。今回の調査区では、確認調査で検出したような掘立柱建物等の造構は検出されなかったものの、一部で中世の遺物包含層が遺存していた。造構としては、堤内側の緩斜面全面で東西方向の杭列が検出された。大半が堤に平行して垂直に打ち込まれたものであるが、數本の横木が確認できたことから、土留めとしての機能が推定される。これらの杭や横木は中世の遺物包含層に覆われておらず、中世以前の築堤に伴うものであろう。遺物包含層や築堤盛土出土の最新の遺物が示す年代は14から15世紀である。これらのことから、丹保池の成立が中世後期以前にさかのほることが明らかになった。

まとめ

丹保池周辺の高向遺跡の既往の調査では、飛鳥時代以降中世に至る集落遺跡が確認されている。掘立柱建物について見ると、奈良時代までのものは正方位に近いものが多く、11～12世紀のものが条里地割りに合致しているものが多い。中世になると条里に合致したものもあるが、方位にはばらつきが見られる。これらのことから、確定的にはいえないだろうが、付近の条里制施行の時期を11～12世紀ごろと見ることが可能であるかも知れない。丹保池そのものも、ややいびつな形ではあるもの

の、方1町の方形で、条里地割りに乗っている。今後の調査により、周辺の条里や集落遺跡との関係が整理されれば、より詳細な池の成立年代が推定できるようになり、この地域の耕地開発の歴史をひととく鍵となっていくであろう。なお、今回の調査結果の詳細は、藤原哲他「高向遺跡発掘調査概要」(大阪府教育委員会2000年3月)に報告した。

注：西川寿勝「高向遺跡」大阪府教育委員会文化財調査事務所年報3(大阪府教育委員会1999年12月)



第45図 北堤杭列検出状況

池上曾根遺跡 (99036)

- (1) 和泉市池上町 (2) 330m²
(3) 平成11年11月24日～平成12年3月31日
(4) 都市計画道池上下宮線建設工事 (5) 西川 寿勝

調査位置は国道26号線に府道松ノ浜曾根線・府道池上下宮線が取りつく交差点東側にあたり、池上曾根遺跡中枢部の北東隅に位置する。調査区の西は国道26号線に伴う昭和45年度調査のN区と接し、中央は府道池上下宮線に伴う平成9年度97-6区と、東は97-5・7区と接する。調査は99-1～5区に分けて行った。

遺構面は上層から水田耕作にかかる第1～2遺構面と自然河川による第3遺構面、弥生時代中期の遺構があった第4～5遺構面に分けられる。

3区・4区を覆う自然河川堆積物を除去すると1・2・5区で何条かの溝が切り合って検出された。これらの溝は97-6区でみつかった溝群に取りつくものもある。溝は直角に折れ曲がったり、完形の弥生土器が落ち込んでいたり、埋め土に流水・帶水の痕跡がなく、徐々に埋没、あるいは人為的に埋め立てられたものもある。以上から97年度調査で発見された墓域がこの地域まで及び、方形周溝墓群があつたと予想した。しかし、周溝墓を決定づける明確な主体部はこされていなかった。また、調査範囲ではどの周溝も全周が確認できなかった。

調査区南側は自然河川によって弥生時代中期の遺構面は残されていなかった。ただし、これまでの調査によってこの自然河川は南東方向から北西に向かって蛇行しながら流れの河川で、ときおりの氾濫によって付近に堆積物をあふれさせる状況も把握できた。自然河川の流れと、付近の調査による弥生時代の地表面を検討すると、微地形はむしろ東が低湿で西に高いことが確認できる。この高まりは国道26号線付近が頂点で、それより西側は急激に低くなることも知られる。自然河川は国道26号線の調査区では人工的に掘り直して、流路を規制していることが確認されている。この状況を評価すれば、西側の高まりによって本調査区付近で氾濫した水の一部は逃げ場を失い、排水する必要が生じたのだろう。

今回検出された周溝はこれらの水を受け入れる開渠の役割を兼ねたと考える。周溝2-1には明らかな流水堆積の痕跡があり、周溝2-2には掘り直しや人工的に埋戻された痕跡があった。ただし、埋め土の大半は有機物を含む土壤化した粘土

層による。掘削後、肩部を崩落させながら徐々に埋もれていく様子がわかる。

さて、今回発見された周溝群からは明確な主体部が発見されず、周溝墓と断定することは出来なかった。しかし、周溝2-3のコーナー部に据えられていた土器は棺に転用されたものだった可能性もある。形態をよくとどめないが底部は弥生時代中期の様相だ。周溝1-1の内側に残された盛り土状の高まりには弥生時代前期後半以外の土器が見られず、構築時期を推定できる。

周溝から発見された遺物で注目できるものは周溝2-2からみつかった壺群である。これらはいずれも完形に復元できるもので等間隔に離れ、周溝の内側上面よりびり落ちた形で発見された。そのうちの一つは穿孔があり、供獻的な意味合いを示唆する。

各周溝はコ字形で、西の一辺を別の周溝と共有し、鎖状につながって東に発達して行く様子が復元できる。切り合いから、周溝1-1をもとにその東に、周溝2-2・周溝2-3が、周溝2-2をもとに周溝2-3が掘削されたと考える。周溝5-2は西側の状況が不明だが南側は明らかに周溝2-1の形を規定している。ただし、埋め土の堆積状況は両周溝が互層に折り重なる。開削時期は周溝5-2が古いようだが、両周溝はほぼ同時期に機能していたようだ。別の周溝が北側や西側にさらに存在すると予想できる。

以上の詳細については本年3月刊行報告書『池上曾根遺跡』IIを参照されたい。



第46図 発見された周溝群

禁野本町遺跡 (99037)

(1) 枚方市中宮本町地内 (2) 3 m²

(3) 平成11年11月22日

(4) 都市計画道路枚方藤阪線道路拡幅 (5) 横田 明

調査経緯

禁野本町遺跡は枚方丘陵の西端付近、天野川右岸の標高30m程度に位置する遺跡である。弥生時代中期～平安時代に至る複合遺跡である。遺跡の主体となるのは、奈良時代および平安時代の集落であり、これらの建物群は主軸をそろえて整然と配されている。南に百済土跡（国指定特別史跡）があることと合わせ、百済王氏の居館とも言われる遺構群である。

今回の調査は道路拡幅（歩道設置）に伴うもので、遺跡の中心に近い所である。予定地内に幅1mと1.5mの調査区を2カ所設け、遺構、遺物の有無を確認した。

調査概要

アスファルト、盛り土および水田の耕作土は機械で除去し、それより下の層を人力で掘削した。（東調査区）

京都銀行東側に設置した調査区である。地表面下90cmから包含層である灰色粘質土を検出。これは層厚20cmで奈良時代のものらしい須恵器大甕破片を含んでいた。灰色粘質土の下は地山層

（黄色粘質土）で、地山層を掘り込むように、溝らしい遺構を検出した。溝状遺構は深さ約20cmで埋土は黄灰色粘土層、須恵器や土師器の破片を含んでいた。しかし上場は片側を検出したのみであるので、幅は不明である。（西調査区）

地表下1mの地点で灰色粘質土層を検出した。この灰色粘土層は溝状遺構の埋土であった。この溝状遺構は地山層を基盤にして掘られており、地山層は東から西に傾いていた。埋土からは奈良～平安時代にかけての須恵器、黒色土器などが若干出土した。

まとめ

当調査区は奈良時代居館の発見された中宮住宅のすぐ南側にあたり、当初から遺構、遺物の確認される可能性が大きかった。今回の試掘調査でも、溝状遺構など関連する遺構、遺物の存在が確認され、遺構が続いている可能性が大きい。包含層は地表面から1m下で検出されている。今後、周辺で調査を行う場合には注意を要する。



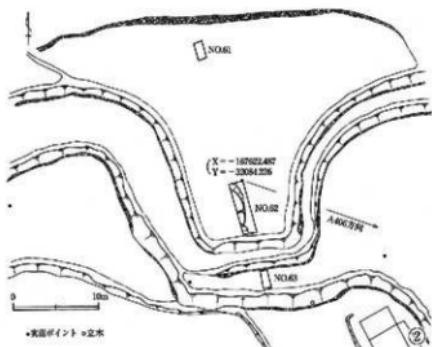
第47図 調査区位置図

平石・加納古墳群 (99039)

- (1) 河南町平石・加納 (2) 200m²
 (3) 平成11年9月30日～平成12年3月31日
 (4) 中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」 (5) 桥本 哲

今回の調査は上記の事業に伴う埋蔵文化財を確認する目的で、加納集落から平石集落に至る府道竹内河南線沿い南側の棚田一帯を中心 $2\text{m} \times 1\text{m}$ の試掘坑110箇所を設定して実施した。この地区には平石古墳群・加納古墳群が知られており、ツカマリ、アカハゲ・加納1・2号墳については墳丘裾部を含む周辺の状況を把握する方向で試掘坑を設定した。また平石集落付近では地籍図に残る「坊ノ尻」・「大門」・「舍利」などの区域を重点的に調査した。以上の結果、平石古墳群と加納古墳群を分ける谷地形の東側の南北に伸びる山塊端で、あらたに古墳1基が存在することが判明した。その地点に残る文字名「シショツカ」から、これをシショツカ古墳と呼称した。舌状に南に突出する一枚田の端部に南北方向に設定した1.5m

$\times 6.0\text{m}$ の試掘坑内で、現地表面より約1.25mで天井石と思われる2枚の石（検出面南北長1.6mおよび2.5m）を確認した。厚さ25cmの耕土以下この石まで層厚1.1mは厚さ3~15cm単位の版築盛土となっている。南端では耕土以下に盗掘坑がある。この地点から北へ15mに設定した試掘坑ではこのような盛土状況はみられず、土質も比較的軟弱であり、両試掘坑間に北側からのびる山塊斜面との区切りをつけた塗の存在が想定できる。なお盗掘坑から古墳内部の施設の板石片が出土している。またアカハゲ古墳南斜面に設定した試掘坑では、かつて同古墳調査会により発掘された黄褐色に蓋円面観の蓋片が出土している。さらに加納2号墳至近の試掘坑では8世紀前半の須恵器平瓶が出土している。



第48図 位置図 ①

第49図 シショツカ古墳周辺、試掘坑位置図 ②

第50図 同古墳天井石検出状況 ③

倉垣遺跡（99041）

(1) 豊能郡能勢町倉垣 (2) 2,590m²

(3) 平成11月11日～平成12年3月24日

(4) 農業基盤整備事業「歌垣第2地区」 (5) 辻本 武

倉垣遺跡は、南北1.5km、東西0.8kmの小さな盆地平野の中央に所在する遺跡である。これまでの調査では、弥生時代の住居跡や方形周溝墓、古墳・飛鳥時代の住居跡、平安時代・中世の建物跡などが検出された。今回も昨年に引き続き圃場整備工事に先立ち発掘調査を行った。

調査の結果

縄文時代 有尖頭器の出土をみた。伴出遺物はなかったが、当遺跡では早期の土器が出土しているので、この石器もこの時期のものとしたい。なお当能勢町内では大里遺跡で縄文早期の押型文とともに木葉型尖頭器が出土している。

弥生時代 中期前半の溝やピットが検出されたが、住居や建物としては組み合わなかった。出土遺物は壺や甕、蓋などがある。またこの地域独特と思われる土器も出土している。特筆すべきものとして石刀がある。

古墳時代 自然地形の谷を2本検出した。その

うちの南の谷では、流れに対して直角に杭を打ち並べる堰が構築されていた。谷内からは布留式土器や須恵器が良好な残存状況で出土した。

奈良時代 径1m、深さ0.4mのピット内に木器皿2枚と、蓋と身のセットとなる曲物容器、須恵器の壊蓋を検出した。すべて完形品である。この周辺にはこれ以外にこの時代の遺構は見あたらず、単独のものである。

平安時代 中世の包含層からであるが、綠釉陶器の出土があった。当遺跡から出土した綠釉はこれまで3点となった。

おわりに

当遺跡の調査は、本年度を含めて4年間にわたって約1万m²に達する面積を調査してきた。その結果、縄文時代から中世に至るまでの各時代の遺構・遺物が発見され、多大な調査成果を得ることができた。

なお圃場整備事業に伴う当遺跡の調査は、今回をもって終了した。



第51図 調査区位置図



第52図 M区全景(北から)



第53図 奈良時代木器出土状況

中神田遺跡 (99045)

(1) 寝屋川市御幸西町 (2) 463m²

(3) 平成12年1月 日～3月24日

(4) 府営御幸西住宅第3期建設工事 (5) 横田 明

調査の経緯

中神田遺跡は寝屋川御幸西住宅の建設に先立つ調査で発見された遺跡である。1次・2次調査は、寝屋川市教育委員会によって実施され、堀によって区画された屋敷地や、羽釜を転用した井戸枠、耕作地など鎌倉時代を主体とする遺構群、およびその下から堤状の遺構が確認された。遺物も瓦器椀、皿、羽釜、白磁、青磁など多彩なものが発見されている。今回の調査は屋敷の発見された南側にあたり、中世および、古墳時代の自然流路が検出された。

基本層序

基本的に粘土やシルト層を基本とし、間に砂を含んでいる。上層は灰色系統の砂質土を主体としており、比較的安定した環境を思わせるが、黒色粘土層を主体とする下層は、湿地帯で形成されたことを推測される状況である。かつては湿地帯であったものが、中世以降は比較的安定した環境になったのであろう。

遺構

自然流路 NR-09

中世面を基盤にした自然流路である。西北から南西に流下する自然河川で、幅約7m、深さ1.4mをはかる。暗灰色や灰色系統の砂や砂質土が主体で、間に黒色粘土もはさんでいる。黒色粘土には草本系の植物遺体が多量に含まれており、人工の遺物としては土師質羽釜、瓦器椀、土師器皿等が出土した。

自然流路 NR-10



第54図 調査区位置図

NR-09より下層で検出された自然流路である。北から南に流下し、深さは60cm、幅は6m以上である。おそらく元々の流路は蛇行しながら流れ、調査区範囲内には西から取り付き、調査区内で南に向かう向きをかえるのであろう。埋土は砂と粘土が互層になっており、遺物は流路の底からは古墳時代後期の遺物が若干出土した。

まとめ

今回の調査では古墳時代および13世紀を主体とする自然流路を検出できた。

下層で検出した自然流路NR-10は若干ながら遺物を含んでいる。この河川は現在の古川と同じように、北から南へ流れていた。出土遺物は土師器、須恵器など古墳時代遺物が主体である。しかしながら周囲は湿地を想定させるような堆積状況で、生活跡があったとは思えない。北方に当該時期の遺跡があるのであろうか。

鎌倉時代の検出面については、明確な遺構は検出できなかった。だが包含層からは、中世時期の遺物が発見されている。また土層の堆積状況も上層は比較的安定した様相を示しており、耕作が可能な条件にはあったものと推測される。

過去に行われた東側地区的調査(第3次調査)でも、明確な遺構は発見されていない。屋敷地は1次調査区を中心とする限定された範囲に収まるようだ。微高地の限られた部分を利用して集落にしているのだ。西側には自然堤防などになんらかの遺構のある可能性はあるが、東側については湿地帯で特別な遺構は存在しないものと考えられる。



第55図 遺物出土状況

寛弘寺1号墳 (99049)

(1) 南河内郡河南町寛弘寺 (2) 893m²

(3) 平成12年2月2日～3月24日

(4) 河南西部地区農地開発事業 (5) 地村 邦夫

寛弘寺1号墳は寛弘寺古墳群の中のツギノキ山支群に含まれる古墳である。昭和62年度のトレンチによる範囲確認調査で一辺17m以上の方墳であることが明らかにされている。またかつて鉄製甲冑が出土したと伝えられている。

古墳の周開はすでに調査が完了しており、今年度の調査は古墳の埴丘とその縁辺部に限られた。調査前の実見で、古墳の裾および埴丘中位には後世の石積みが巡らされており、墳形が改変されている可能性があると考えられた。またかつては埴丘全体に植樹がなされていたとのことであった。後世の埴丘の改変がどの程度であるのか、そして植樹に伴う擾乱によって、主体部が残っているかどうかが調査の主眼となつた。

調査の結果、石積みによる埴丘の破壊は石積み部分のみに限られており、埴丘全体に及ぶものではなかった。また主体部も、上半は削平を受け、一部は擾乱を受けているが、ほぼ全形を窺うことができたのは幸いであった。

まず埴丘については調査の結果、南北約21m、東西約20mの方墳であり、当初予想していたよりもやや規模が大きいことが判明した。また本墳は周溝を有しないことも確認した。

埴輪は円筒埴輪の破片が出土したが、いずれも小片で量も少ない。埴頂部は削平のためか、埴輪を樹立した痕跡は全く認められなかつた。

主体部は埴丘のほぼ中央で検出した。割竹形木棺を納めた粘土櫛である。埴丘上面は植樹のために擾乱が著しく、主体部の上半は破壊されていたが、下半部はほぼ依存していた。割竹形木棺は完全に失われており、痕跡もほとんど残っていないかったが、粘土櫛の内寸から長さ5.2m、幅0.5～0.6mと推測される。深さは検出面から0.4～0.5m。両小口は径10～20cm大の礫を積み上げて押さえている。両小口とも擾乱を受けているが、これは開墾などの際に露出した櫛を取り除こうとした結果であろう。

副葬品は北小口付近に鉄鎌約30本、鉄斧、ヤリガンナ、刀子などが、南小口付近には鉄斧、鉄鎌先、ヤリガンナなどが納められていた他、木棺の側縁に沿って丁寧に置かれた精良な粘土および、棺床の粘土には短刀がねり込まれていた。両小口

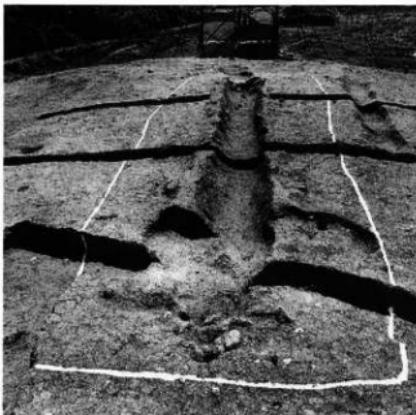
は擾乱を受けており、特に南小口の副葬品は乱れていることから、副葬品はもう少し多かったはずである。なお棺床のレベル差と副葬品の様相から、被葬者は北頭位と考えられる。

埴方の平面形はほぼ長方形で、規模は南北6.6m、東西2.0～2.2m、深さは検出面から0.4～0.5mである。埴方埋土からはサヌカイトの小片が1片出土しただけであった。本墳の時期は出土した円筒埴輪片および粘土櫛の構造などから5世紀前半と推測される。

なお埴丘調査および、埴丘下層の弥生時代の遺構の有無の確認については平成12年度に統けて実施する予定である。



第56図 墓丘全景（南から）



第57図 主体部棺内完掘状況（北から）

ひじり じん じや
聖神社古墳群隣接地 (99052)

- (1) 和泉市王寺町 (2) 60m²
 (3) 平成12年2月21日～平成12年2月25日
 (4) 都市計画道路大阪岸和田南海線 (5) 西川 寿勝

聖神社の鎮座する丘陵先端部を南北に分断する形で都市計画道路が予定された。周辺地域は宅地化が進み、かつての面影は失われつつある。しかし、江戸時代には淨瑠璃などで知られる葛葉伝説が有名で、信太の森には狐穴が多くあること、西国三十三ヶ所靈場巡りとして、室町時代以降、他国遠方の人々が往来したことなどが知られる。

また、聖神社境内には古墳時代後期の2古墳が発見され、横穴式石室の1号墳は現在も現地に保存されている。2号墳はカマド塚古墳で昭和34年に末永雅雄氏らによって発掘調査され、同年の日本考古学協会で報告、その特異な埋葬形態が注目されるようになった。

聖神社周辺の斜面で埴輪が採集された報告を受け、古墳群の実態を解明すべく信太山遺跡調査団によって數カ所の試掘調査が実施されたこともある。しかし、古墳群の実態はつかめていない。

以上を踏まえ、道路予定地内に三か所の試掘区を設定し、遺跡の確認を試みた。調査区は南北二か所で、北側では二か所の試掘区を南側では一か所の試掘区を設定した。

その結果、北側では地表下0.5~0.8mに旧耕土・床土が残され、その下層に黄褐色粘土の堆積層が厚く確認された。それは、聖神社北側鏡池から伸びる谷筋の堆積土と考える。遺物は含まれず、人工的な整地層もなかった。ただし、上層の旧耕土・床土内には須恵器・土師器・瓦器・瓦など奈良時代~中世の土器細片がまばらに含まれた。東側、丘陵上面には遺跡の存在を予想でき、そこから流れ込んだ遺物と推測できる。

南側試掘区は削平が著しく、表土直下に地山の赤土、あるいは黄色粘土層がみられ、付近の切り通しの観察などからも、旧地表面は広範囲に残されていないことが確認できた。

以上より、南北試掘区では遺跡の実態が解明されなかったものの、付近に遺構の存在が推測された。削平の少ない平坦地について更なる試掘調査が必要と考える。

今回予定地の南側は既に一部が工事着手され、これに先立つ試掘調査資料がある。詳細は前年度「年報」3で伯太藩陣屋跡隣接として、12か所の試掘調査結果を報告している。参照されたい。



第58図 試掘区周辺位置図

丸笠山古墳隣接地 (99053)

- (1) 和泉市伯太町 (2) 30m
(3) 平成12年2月21日～平成12年2月22日
(4) 都市計画道路池上下宮線 (5) 西川 寿勝

府指定史跡丸笠山古墳のある丘陵の前方部側高所に、周溝外側に重なる形で都市計画道路建設が予定された。この道路は史跡池上曾根遺跡の北端を東西に横切る道の東側延長部分にあたる。これに先立ち丸笠山古墳との関係を明らかにする目的で試掘調査を実施した。また、付近は信太千塚古墳群の北端に位置し、南には玉塚古墳や太平学園内古墳などを望むことができる。ただし、周辺ははやくに宅地化が進み、古墳群の実態が明らかにされないまま、中小古墳が造成工事によって消滅しており、古墳の分布を正確に位置づけることは困難になっている。

試掘区は北に伸びる舌状の丘陵に直行し、東西約20m、幅約1.5mを設定した。その結果、地表下約1m付近で地山疊混じり粘土層を確認した。

地山上に堆積した土は戦後の大規模開発時の整地土で、古い建物の瓦礫や水田耕土などが混じる。南側高所を造成する際に排出された土を客土したものだろう。遺物は含まれなかった。

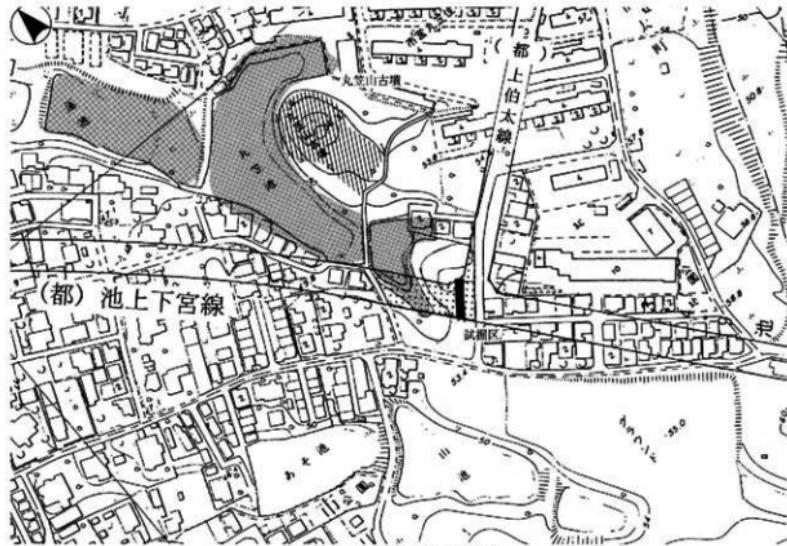
一方、地表面も丘陵斜面の崩落などで堆積層の深い部分が残されるのみで遺構・遺物は見られな

かった。

以上より、推測すれば、丸笠山古墳南方部分は本来かなり高い丘陵が存在し、そこから北に向かって急激に傾斜し、北側・西側斜面は地すべりなどの崩落で旧地形を大きく埋没させる堆積をくり返したようだ。後の宅地造成などで丘陵はさらに削平され、斜面は逆に盛り土をうけ、現状のならかな地形へと変化したようだ。

丸笠山古墳はかつて、埴輪が相当見られたという。和泉黄金塚古墳と同じ頃、丘陵先端を利用して造営された和泉市最大の前方後円墳とされている。しかし、採集されたとされる埴輪も今となつては不明瞭で、前方部の削平など、自然地形の形成部分はよくわからない。周囲には丸笠山など段状の堤をもつため池があり、あたかも周溝のようにめぐる。ため池も築造当時のものか明らかでなく疑問視してきた。今回の調査によても丘陵を人工的に形成した痕跡は認められず、旧地形も大きく異なることが明らかにされた。

丸笠山古墳が前期大型前方後円墳だった根拠は失われつつある。



第59図 試掘区周辺位置図

かな おか にし
金岡西遺跡発掘調査（99060）

- (1) 堺市金岡町地内 (2) 1,561m²
(3) 平成11年1月8日～平成12年5月15日
(4) 都市計画道路南花田鳳西町線建設工事 (5) 今村 道雄

金岡西遺跡は、都市計画道路南花田鳳西町線建設工事に先立つ試掘調査で、1998年に発見された遺跡である。

本年度は、平成13年度の開通を目指している箇所のうち、買収が終了した用地の調査を実施した。

現地一帯は、民家と農地が混在し、市道、里道の所有・維持管理、水路管理や田畠の耕作・所有関係が複雑に入り組み、道路工事に関して大阪府や堺市から擁壁工事、水道管、下水道管理設工事等の複数の工事発注が錯綜し、地元調整、工事調整を行なう必要があった。

調査成果

調査地（1,561m²）は幅3mの市道を境に、北側をA区（937m²）、南側をB区（624m²）に分割して実施した。

A区からはピットや土壙等約300ヶ所の遺構を検出している。主な遺構は（梁行き2×桁行3）間と（梁行1×桁行3）間の掘立柱建物と柱間7間以上の横列、一辺（130×80m）の方形土壙等である。遺構密度は北側より中央から南側の方が高い。この他に多くの土壙やピットを検出することができた。

出土遺物は、掘立柱建物や横列の柱穴からは土師器と須恵器の細片が出土している。方形土壙から遺物は出土していない。

包含層からは瓦器片、青磁・白磁片、奈良時代の須恵器片、土師器片のほか古墳時代の須恵器片が若干出土している。

B区からは落ち込みや溝など約100ヶ所の遺構を検出している。主な遺構は幅約8m落ち込みと小溝に小ピットである。ピットや土壙等はほとんど認められなかった。落ち込みは西に深くなり調査区外へ伸びる。

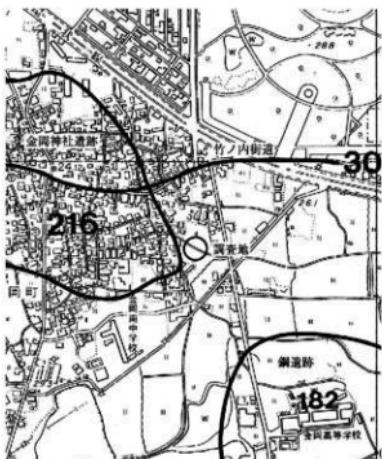
主な出土遺物は瓦器片、青磁・白磁片、奈良時代の須恵器片、土師器片のほか古墳時代の須恵器片等である。

包含層出土遺物は、瓦器片、奈良時代の須恵器片、土師器片等がある。

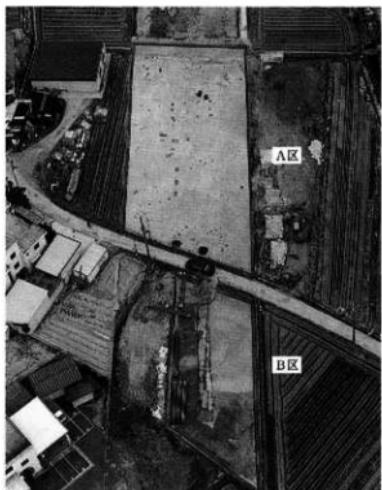
まとめ

今回の調査では、奈良時代と中世平安時代の遺構を検出することが出来た。遺物は古墳時代の須

器、奈良時代の須恵器・土師器が多く、中世の瓦器片が少量出土している。



第60図 調査位置図



第61図 調査地区航空写真

野々上遺跡（野中寺跡）(99061)

(1) 羽曳野市野々上 (2) 25m

(3) 平成12年2月14日

(4) 府道西藤井寺線・堺羽曳野線歩道設置工事 (5) 広瀬 雅信

経緯

大阪府土木部では、交通安全対策の推進のため歩道未設置の府道について、順次拡幅、歩道設置を実施している。本事業は富田林土木事務所が実施したもので、当該地は史跡野中寺旧伽藍跡の東に隣接しており、府道西藤井寺線は現野中寺の東側を南北に通過している。現況地形は府道の東側で段丘状に一段下がっており、新池という溜池がある。歩道は新池の一部を埋め立てて府道を拡幅したうえで設置された。

野中寺の寺域の東限は府道よりも東側にあると推定されており、池内にも遺構・遺物が残存している可能性があったため、埋め立てに伴って池内に設置した擁壁基礎の掘削工事について立会調査を実施したものである。

調査結果

掘削工事は府道西藤井寺線と平行して延長約50m、幅約5mの範囲で実施された。新池の北東角から約5mは新池北堤および西護岸の一部に及んだが、それより南、府道堺羽曳野線までは池底面の掘削であった。池底面については、ヘドロを除去するとすぐに礫混りの地山となり、遺構・遺物等は全く確認されなかった。

池の北東角では道路面から約2.5m下で礫混り黄褐色粘土の地山を確認した。その直上で奈良時代以前の遺物を包含する暗灰褐色粘質土を確認したが、築堤盛上あるいは護岸裏込め土の中にブロック状に含まれており、プライマリーな堆積ではない。出土遺物は土師器、須恵器を少量含むものの大半は白鳳から奈良時代の瓦片である。また、焼土、炭等は含んでいないことから、瓦窯に由来するものではなく寺域ないしは周辺の遺物包含層を削平した土層であろうと考えられる。

まとめ

野中寺は所蔵する弥勒菩薩半跏思惟像の紀年銘や出土瓦に記された年号などから7世紀半ばに成立したと考えられており、伝承では聖徳太子ゆかりの寺とされているが、渡来系氏族の氏寺としての性格が強いと考えられる寺である。羽曳野市史などによれば2町半四方程度の寺域を持っていたと推定されている。

府道西藤井寺線は元は里道で、新池も本来もっ

と広かったという。池の北側に続く現地形はかなり急に東へ傾斜しており、野中寺が存在した時期の旧地形ともそれほど変わっていないだろう。新池は南側がバチ型に開く台形を呈するが、府道西藤井寺線もそれに沿って現野中寺の南東隅付近で西へ屈曲する。本来里道はこの台地の縁辺を南北にとおっていたのであろうから、新池築造に伴う地形の改変と見てよい。

野中寺の占地を考えた場合、地形の高い部分には回廊に囲まれた範囲はかろうじて収まるが、東回廊のすぐ外で急に地形が落ち込むことになる。築垣等の外郭施設については未だ不明と言わざるを得ないが、こういった地形や、野々上遺跡をはじめとする周辺の遺跡との関連で、寺域あるいは寺地の範囲をどう推定するかについては課題が残されていると考えられる。



第62図 調査地位置図

木の本遺跡 (99063・00001)

- (1) 八尾市南木の本3丁目 (2) 214m²
(3) 平成12年3月1日～平成12年5月12日
(4) 一般河川平野川改修工事 (5) 藤田 道子

木の本遺跡は大阪府東南部八尾市に位置する。遺跡の範囲は広く、東西2km、南北1.3km、南西部に八尾空港を含む。弥生時代から中・近世に至るさまざまな時代の遺構・遺物が確認されている。大阪府教育委員会は平野川改修工事に先立ち発掘調査を実施してきた。調査は改修後の新河川川幅5mのトレンチ内で行われるもので、冠水も頻繁にある。しかし平成9年から今年度実施してきた遺跡北東部を南北に貫く総延長400mのトレンチでは、古墳時代前期～中期にかけての遺構・遺物を検出し、当該期の集落の様相が判明しつつある。

既応の成果

改修工事は現平野川流路内を鋼矢板で区切り排水したあと掘削する。ほぼ全調査区を通して見られる基本層序は、①旧平野川の埋土もしくは近世の堆積層、②無遺物層もしくは中世遺物包含層、③古墳時代中期の包含層と遺構面、④古墳時代前期の包含層と遺構面となる。しかし古墳時代の遺構面は上流側の調査区では前期、中期1面ずつ計2面認められるが、下流側の調査区では遺構面は1面のみで前期と中期の遺構が重複している箇所がある。また前期の遺構面からは、庄内2、3式から布留式古段階までの時期の遺構を検出してい る。

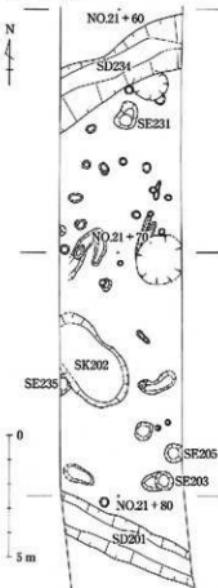
調査成果

今年度の調査区は了意橋下流部分延長約45mである。主たる遺構面は1面であるが、古墳時代前期、中期の遺構を重複して検出した。遺構の分布は調査区の中央微高地部分の約20mに集中している。

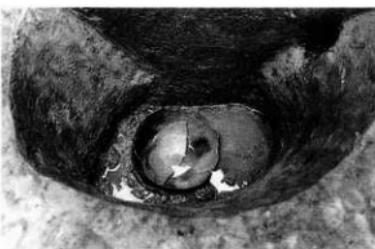
主な遺構について述べる。微高地の南北両側に幅2m程度の溝を検出した。南側の溝201からは多量の古式土器を検出した。微高地上面北寄りで柱穴を多数検出した。柱穴は直線に並ぶものがあり、柱穴列に沿って細く浅い溝を検出している。柱穴群の周囲に井戸、土坑等を検出した。井戸は4基検出した。いずれも平面形が径80cm程度の円形素掘りの井戸である。井戸205の上層からは、布留式の土器の他に木製陶物の盤が出土した。井戸231の最下層からは布留式古段階の壺形土器が口縁部を上向きに据えその上に体部を置いた状態

で出土した。土坑202は平面は楕円形、長径(推)4m、短径2.2mの大型土坑である。埋土は3層にわかれ中層、下層から古式土器、初期須恵器が出土したが、とくに中層からは棒状の木片が多数重なるように出土した。

遺構面を覆っていた遺物包含層からは大量の古式土器の他に初期須恵器、韓式系土器、製塙土器等が出土している。



第63図 遺構平面図



第64図 井戸231遺物出土状況

暮坂古墳（99065）

(1) 豊能郡能勢町山内 (2) 1,200m²

(3) 平成12年1月24日～2月8日

(4) ダイオキシン類環境改善事業 (5) 中井 貞夫・辻本 武

調査に至る経過

能勢町山内所在の豊能郡美化センターは、ゴミの焼却に伴いダイオキシン類を含む煤煙と冷却水の飛散により、美化センター周辺の土壤を汚染してきた。

美化センターの南側に隣接する府立能勢高等学校実習農場もダイオキシン類の汚染を受けた。実習農場内で1,000ピコ以上に汚染された範囲の土壤は厚さ20cm除去する。それ以下の汚染を受けた部分は土で覆う。このような方法で、ダイオキシン類で汚染された範囲について人体に悪影響を及ぼさないよう処置を施すことになった。

実習農場内には暮坂古墳が所在している。この古墳の表土は、土壤採取し分析した結果、ダイオキシン類により1,000ピコ以上に汚染されていることが判明した。これにより、地表から20cmの厚さで土を除去することになった。汚染土壤を除去した後、植生シートで被い土の流出を防ぐことにした。

今回の調査は、汚染土壤厚さ20cm（表土層）を人力で除去した後、不明であった石室の現状を確認し、写真測量を実施するものである。

古墳の位置

山内の盆地平野から山内川に沿って北へ入る道は、東の篠口峠へ向かう道と北西の暮坂峠へ向かう道とに分かれ。この分歧点周辺に古墳群が展

開し、「篠口暮坂古墳群」として12基の古墳が周知されている。この古墳群は、そのなかでさらに東の8基を「篠口ゲボ山古墳群」、西の4基を「暮坂古墳群」と名付けられて二つのグループに分けられている。

今回調査した古墳は暮坂古墳群の一つであるが、他の3基は全壊し、今は跡形も残っていない。従つて唯一この古墳だけが残存していたのである。

調査の成果

古墳の墳丘および横穴式石室を検出した。

古墳は径17mの円墳で、その南側の3分の2程は農場部分で墳丘や石室の石材が残存し、北側3分の1程は里道によって切り取られていた。墳丘高は東と西の裾部から測ると2.4m、南の裾部からは3.5mである。

里道部分において横穴式石室の玄室の奥壁と左側壁の一部を検出した。玄室床面を確認しなかつたので、検出された玄室の石材が何段目のものであるかは不明とならざるを得なかった。また里道面を精査すると、玄室を構築する際の掘り方線を発見することができた。

農場部分に玄室右側壁があるはずであるが、確認できなかった。しかし露出した石材群を、石室がそのまま押し潰されたものと考えるならば、玄室の規模は幅2.5m、長さ3.8mと推定できる。

玄室から南西方向に向かって2列の石材群が検

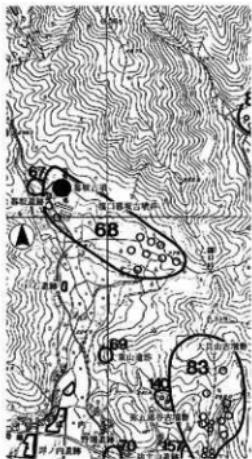


第65図 豊能郡美化センターと暮坂古墳（南東から）

出され、漢道であることが判明した。幅は1.2mを測る。前述の玄室と総合して考えると、0.6mの両袖を持つ石室となろう。また石室の開口方向は南から西へ38°振った方向である。

まとめ

当古墳は、径17mの円墳、2.4~3.5mの墳丘高、S-38°-Wの方向に開口する両袖の横穴式石室、石室は全長8.2m、玄室の幅2.5m、同長さ3.8m、漢道の幅1.2m、同長さ4.4mである。





第69図 調査着手前（南から）



第73図 古墳石室全景垂直写真



第70図 古墳全景（東から）



第74図 義道部（南東から）



第71図 玄室部（東から）



第75図 玄室部（北西から）



第72図 万全の装備で発掘作業



第76図 調査終了後の植生シート養生

讃良郡条里遺跡 (99070)

- (1) 四條駅市大字蘿屋・砂 (2) 293m² (3) 平成12年3月13日～4月11日
(4) 大阪府寝屋川流域下水道なわて水環境保全センター建設
(5) 佐久間 貴士・横田 明

遺構概要

讃良郡条里遺跡の南端、岡部川の北岸に浄水場が計画されている。本調査はそれに伴う第1次試掘調査である。試掘調査は、浄化槽予定地に5m四方のグリッド1か所(A区)、幅3m、長さ50mのトレント1か所(B区)、3m四方のグリッド2か所(C区・D区)を設けて実施した。A区では平安時代中期の遺構面が確認されており、屋敷地が周辺にあるものと推測される。鎌倉時代には開発が広範囲に及んでいたようである。すべての調査区で鎌倉・室町・江戸時代の耕地址がみつかっており、畦畔・溝・足跡などの遺構が検出されている。

また、3か所設定したグリッドにおいては、古墳時代の集落跡を発見した。A区のみ深く掘り下げた結果、古墳時代(6世紀)の遺構面については3面確認した。上面では3本の柱と炭の入った土壙や南北方向の大溝を検出した。中面は薄い砂で覆われており、溝と足跡が検出した。下面は柱穴5本(柱根遺存)、溝・土壙を検出した。柱は掘立柱建物の一部と思われる。写真は下面の遺構の情況であるが、立っている柱は上面のものである。(第77図)

出土遺物

遺物としては、縄文時代後期、弥生時代中期、古墳時代前期・中期～後期、飛鳥時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代など各時代のものが出土しており、古い時期から新しい時期まで活



第77図 古墳時代遺構面

動のあったことがわかる。

縄文時代 平底鉢の底部が出土している。内面はナデ調整を施しており、外面に縦方向の縄文を施している。後期に属するものと判断される。

弥生時代 小さな破片ばかりではあるが、中期に属する壺や甕などが出土している。

古墳時代前期 庄内～布留式に属する古式土師器の高杯などが出土している。

古墳時代中・後期 土師器壺なども出土しているが、量的には須恵器の方が多い。時期的にみると、5世紀中頃に属する口縁外面に突帯をめぐらす須恵器壺口縁も出土しているが、6世紀に属する壺身・杯蓋・甕などの方が多い。また有孔円盤、紡錘車(第79図)などの石製品や、馬の骨なども確認されている。

飛鳥時代 やや厚手の土師器碗が出土している。口縁は横方向の強いナデのため内腕している。外面下部はケズリを施し、内面には比較的密に放射状のミガキを施している。(第78図) 6世紀末～7世紀初頭のものと考えられる。

平安時代 平安時代後期を主体とする。土師皿が主体であるが、破片ながら中国製青磁も出土している。



第78図 出土土師器・須恵器



第79図 有孔円盤・紡錘車

—府立能勢高等学校所蔵遺物—

辻 本 武

府立能勢高校では自校の農場等の建設・造成工事の際に出土した遺物が所蔵されている。そのほとんどは「篠口暮坂古墳群」として周知されている古墳群からの出土である。今回ダイオキシン対策で調査した暮坂古墳も当古墳群のうちの一基で、従って当校所蔵遺物は大いに関係のあるものである。そこで関連調査としてこの遺物をお借りして、実測および写真撮影を行った。

(1~4)は須恵器の坏蓋。(5, 6)は口縁部が内傾するので蓋ではなく身である。碗としておきたい。(7~12)は坏。(13, 14)はつまみを有さないが、プロポーションからして蓋であろう。なお写真では立ち上がりを見せるために天地を逆にしている。須恵器の高杯(15)と提瓶(16)。

(17~21)は土師器の高杯で、暗文は見られない。

(22)は土師器のは底で、周辺では類例を聞かないとものである。(23, 24)は土師器の碗。(25~27)

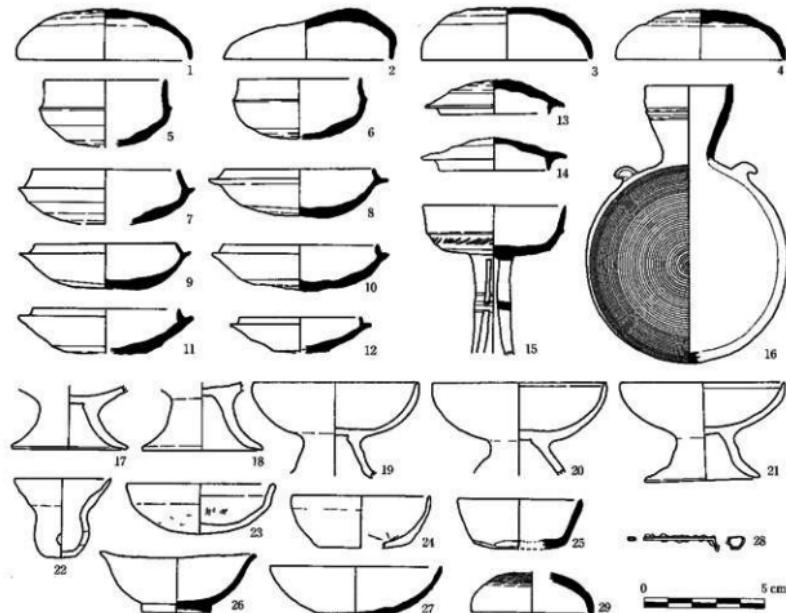
はかなり時代の下るもので、後世になって古墳群が再利用されたことを示す。このうち(26)は一見綠釉陶器のように見えるが、施釉されていないので無釉陶器と言わざるを得ない。(28)はL字状に曲がる鉄製品である。

所蔵遺物のうち(30~35)は、「能勢町史第4巻」(能勢町役場 1981)の第50・51図でその実測図が報告されている。そこで今回は写真のみの報告にとどめた。「同町史」にはこの古墳群の概要が詳述されているので、併せて参考にされたい。

以上は古墳群出土のものである。

なお(29)は高校の講堂拡張工事の際に出土した須恵器の蓋で、これによって当校の敷地が三宅遺跡と名づけられた。

遺物の借用の際には、府立能勢高校村川義典教諭はじめ関係者の方々から多大なご協力があった。深く感謝の意を表したい。



第80図 府立能勢高校所蔵遺物実測図



資料の貸出・掲載・閲覧

長期貸出資料

貸出・展示先	貸出品	出土遺物
1 勝利記念資料室	私生上器9点 七脚器2点 頸部器5点 石笛1点 石斧3点 石鐵6点 烟2点	人骨遺物
	円筒器など4点 黑色土器2点 土器形小瓶3点 瓦器等7点 土器器皿4点 铜器碎片等	上傳遺物 尾端遺物 九ノ坪遺跡 余野城遺跡
2 塩井市立国際会館展示室	小形土器	三ツ塚古墳
3 太子町立牛ノ内歴史資料館	須賀等一氏資料 須賀金美(遺稿)	一般六块屏风Q1文書 舞山古墓
4 国立歴史民俗博物館	石斧3点	池上曾根遺跡
5 大阪府立ドームセンター	陶器・金属器等	大阪城跡
6 欧州考古博物館	新瓦 緑釉瓦 室道瓦など	吉志越瓦窯
7 古志那神社	復元大須御各丸瓦2点 とちん2点	吉志越瓦窯
8 大阪府立守口南高等学校	泥瓦土器5点	福貴遺跡
9 大阪府立守口南高等学校	陶器瓦・瓦 全瓦器等14点	大阪城跡
10 盛岡市立郷土資料館	瓦1点 土器54点	余野城遺跡
11 いづみの歴史史館	泥瓦土器12点 軒丸10点 石斧2点 石劍器4点	府中遺跡 坂本寺遺跡 大園遺跡
12 東京国立博物館	私生上器15点 木製品24点 石器23点 土6点 烟16点 須賀器6点	地上曾根遺跡 陶器底器 (T K73 TK85 TK87)

短期貸出・掲載許可資料

依頼者	貸出・掲載	写真・遺物	種類	遺物名	内容
1 大阪府立太郎ダム防護隊	貸出	写真	35mmスライド	余野城跡	調査風景
2 塩井市立教育委員会	貸出	写真	カラープリント	新寺跡寺	新瓦見
3 岸和田市教育委員会	貸出	遺物	木製品	厚手田城	漆器碗8点
4 株式会社川口文化園	貸出	写真	カラーボジ	赤堀遺跡	淀川時代木構造山城說
5 行人人工道具館	貸出	遺物	木製品	大城城跡	台舟1点
			金銀製品	大城城跡	漆器瓶1点
			金銀製品	大城城跡	模型船1点
			金銀製品	人城城跡	ヤヌリ1点
6 堺市立堺文化財センター	貸出	遺物	金銀製品	鶴見沿東道路	寶鏡實質1点
			金銀製品	文殊院	官署・出土銭一枚
7 地域文化誌『まんだ』	提供、掲載	写真	モノクロプリント	慶應義塾大学	はそう
8 個人	掲載	実測図		大城城跡	台舟
	掲載	写真		大城城跡	台舟
9 大阪府立守口文化博物館	貸出、撮影	遺物	土器	八尾南遺跡	金3点
			土器	八尾南遺跡	高环1点
			土器	八尾南遺跡	高环脚部1点
			土器	八尾南遺跡	佛1点
			植物標本	八尾南遺跡	桃核一枚
			植物標本	八尾南遺跡	ウリ科種子一枚
			植物標本	八尾南遺跡	土野稚豆全粒
			植物標本	八尾南遺跡	十勝柳垂部分
10 個人	貸出	写真	35mmスライド	玉置遺跡	木棺墓
			35mmスライド	玉置遺跡	木棺墓
11 塩井市立教育委員会	貸出	写真	カラーボジ	西河内分寺	石器被付状况
			カラーボジ	西河内分寺	墓葬陪葬品部分
			カラーボジ	新寺跡	出土瓦片
			カラーボジ	北山遺跡	漆器盒状况
12 島根県立八木立つ風土記の丘資料館	貸出	遺物	土器製品	鹿足郡奈良原遺跡	ガラス玉類1点
			石器	田舎中遺跡	石器材15点
			モノクロプリント	田舎中遺跡	石器材出土状況
			カラーボジ	豊島郡生毛遺跡	ガラスモチ
13 共同通信社	貸出	写真	モノクロプリント	向山麻績村	T K73号馬鹿街状況
			カラーボジ	南山遺跡	T K73号馬鹿街出土遺物
14 株式会社日本アート・センター	貸出	写真	カラーボジ	船岡遺跡	海上上船多
15 個人	撮影、掲載	写真	モノクロ	南山南遺跡	出土遺物合写真
	提供、掲載	写真	モノクロプリント	南山南遺跡	獨立柱建築物出土状況
			モノクロプリント	南山南遺跡	出土遺物写真
16 株式会社小学館	貸出	写真	カラーボジ	三ツ塚古墳	藤原出土状况
17 天草町教育委員会	掲載	写真	モノクロ	大城城跡	この丸井上舟
			モノクロ	平成遺跡	獨立柱建築物出土状况
			モノクロ	南二丁目所在遺跡	鉄道開闢工事発掘状況
			モノクロ	市原人形御物場跡遺跡	開元通貫
18 熊本市立櫻井公民館	貸出	写真	カラーボジ	西河内分寺	遺体被付状況、出土遺物
19 塩井市立教育委員会	貸出	写真	カラーボジ	新寺跡	「崩」字形空窓
20 日本文教出版株式会社	貸出	写真	カラーブリント	三ツ塚古墳	藤原出土状况
21 八幡市	掲載	写真	モノクロ	美山遺跡	出土家形埴輪
			モノクロ	久宝寺遺跡	準構造物出土状况
			モノクロ	實業1号墳	出土經形埴輪
22 株式会社夢夢	貸出	写真	カラーブリント	三ツ塚古墳	藤原出土状况
23 太子町教育委員会	提供	写真	モノクロプリント	飯山遺跡	調査状況
	貸出	写真	35mmスライド	飯山遺跡	道路遺跡被付状況
	提供	写真	モノクロプリント	飯山遺跡	出土遺物
	貸出	写真	カラーブリント	飯山遺跡	調査状況
24 富田林市教育委員会	貸出、複写	写真	35mmスライド	新堂廢寺	平成10年度発掘調査状況
25 大阪府立教育委員会	提供	写真	モノクロプリント	御川16号墳	土解剖、削落等10点

登録個人	登録団体	登録写真	モノクロプリント	池上音根遺跡	井戸・土器群
27 和泉市教育委員会	貸出	写真	カラーボジ	池上音根遺跡	先史時代後期の窓・窓 先史時代中期の窓・柱
			カラーボジ	池上音根遺跡	先史時代後期の窓・柱
			カラーボジ	池上音根遺跡	先史時代後期の窓・柱
			カラーボジ	池上音根遺跡	先史時代後期の窓・柱
			カラーボジ	池上音根遺跡	先史時代後期の窓・柱
			カラーボジ	池上音根遺跡	先史時代後期の窓・柱
28 和泉市教育委員会	貸出	写真	カラーボジ	池上音根遺跡	先史時代後期の窓・柱
29 大阪府立泉屋之文化博物館	貸出	写真	カラーブリント	池上音根遺跡	調査状況
30 長浜城史文化博物館	貸出	写真	木製品	大坂城跡	天正13年冬候地図
31 球磨川町教育委員会	貸出	写真	カラーボジ	西郷遺跡	第六往還山岸状況
			カラーボジ	池田内遺跡	第十六往還山岸状況
32 (株) ラユニオンズ バリケーションズ	貸出	写真	カラーブリント	南畠山跡群	調査状況
			カラーブリント	陶邑空塙群	工事跡
			カラーブリント	南畠山跡群	出土領基壇
33 皇室古墳教育委員会	貸出	遺物	土器	三野川遺跡	原意呂古墳1点
34 藤枝市	貸出	写真	モノクロプリント	池上音根遺跡	ドラゴン絵版画の長須庭
35 岩宿文化資料館	貸出	遺物	石器	さきみ山遺跡	庄内式
	貸出	写真	カラーボジ	さきみ山遺跡	ナノフ形石器・翼状石片・翼状石核17点
			カラーボジ	さきみ山遺跡	旧石器時代住居址復原写真
			カラーボジ	さきみ山遺跡	沿石器時代住居址復原写真
36 大阪府立泉屋之文化博物館	貸出	写真	カラーブリント	池上音根遺跡	調査状況
37 皇室古墳教育委員会	貸出	遺物	土器	土器	マグロ塗・丸
			土器	土器	イイダコ塗1点
			土器	土器	イイダコ塗2点
38 個人	貸出	写真	35mmスライド	南畠山跡群	調査状況
			35mmスライド	野間中1号墳	調査状況
			35mmスライド	池上音根遺跡	出土遺物
39 毎日新聞社	貸出	写真	カラーブリント	大坂城跡	天正13年冬候地図
			カラーブリント	市立大阪博物館旧蔵	天正大判・小判
40 四季緑の教育委員会	貸出	写真	カラーボジ	豊臣邸冬足道跡	東近寺はそう2点
41 富林町立教育委員会	貸出	写真	バブル	新堂廬寺	調査状況
			カラーボジ	新堂廬寺	調査状況
42 個人	貸出	写真	35mmスライド	南畠山跡群	調査状況
43 和泉市教育委員会	撮影、掲載	写真	カラーボジ	池上音根遺跡	ヒスイ製勺土
44 マック・フィトリサーチ	貸出	写真	カラーボジ	大坂城跡	天正13年冬候地図
45 マルククリエイト	貸出	写真	カラーボジ	大坂城跡	天正13年冬候地図
46 東京国立博物館	撮影	画像	カラーボジ	陶邑空塙群	出土鉢底
47 東京国立博物館	撮影、掲載	写真	カラーボジ	陶邑空塙群	出土土器
48 丹波篠山市教育委員会	貸出	遺物	カラーブリント	酒呑部冬足道跡	原意22はう2点
49 弐氏会社吉澤源社	貸出	写真	カラーボジ	三ツ塚古墳	移築出土土器
50 京都府立丹波市立考古発掘部	貸出	写真	モノクロプリント	酒呑部冬足道跡	出土須恵器
51 金谷田立石郷土資料館	貸出	写真	カラーボジ	金山1号墳	出土土器集合
			カラーボジ	金山1号墳	調査状況
			カラーボジ	金山1号墳	調査状況
52 大阪府立美術会社	貸出	写真	カラーボジ	南畠山跡群	出土土器集合
53 株式会社日本標準車	貸出	写真	カラーブリント	17ヶ所古墳	移築出土土器
54 金谷田立石郷土資料館	貸出	遺物	土器	船岡寺10号墳	須恵器3点
			土器	船岡寺23号墳	須恵器1点
			土器	船岡寺27号墳	須恵器1点
			土器	船岡寺29号墳	須恵器1点
55 新式会社小学校	貸出	写真	カラーボジ	陶邑空塙群	出土須恵器集合
56 大阪府立美術会社	貸出	写真	カラーブリント	南畠山跡群	須恵器4点
57 金谷田立石郷土標準車	貸出	写真	カラーボジ	17ヶ所古墳	須恵器出土土器
58 金谷田立石郷土資料館	貸出	遺物	土器	船岡寺10号墳	須恵器3点
59 金谷田立石郷土資料館	貸出	写真	カラーボジ	三ツ塚古墳	須恵器1点
			カラーボジ	西小山古墳	須恵器1点
			カラーボジ	西小山古墳	須恵器3点
			カラーボジ	西坂古墳	須恵器3点
60 貝塚市教育委員会	貸出	遺物	瓦	須恵器	新丸瓦6点
			瓦	須恵器	須瓦片10点
61 近畿阳县立郡久米山	貸出	遺物	石器	八坂山遺跡跡6地点	扇形器61点
62 個人	提供	写真	モノクロプリント	池上音根遺跡	土器底出土状況
63 鹿児島市教育委員会	提供	写真	モノクロプリント	藤井大財産跡	南北斗星鏡面
64 斎田招子・大坂城公認協会	貸出	写真	モノクロプリント	西町奉行所跡	調査状況
65 古代を考える会	提供	写真	モノクロプリント	古山大塚	貝塚状況5点
66 畠寺寺立石郷土教育委員会	提供	写真	モノクロプリント	津守城山古墳	石碑
			モノクロプリント	豊巣山古墳	石碑
67 梶山立石会社	貸出	写真	モノクロプリント	津守城山古墳	石碑
68 美原町教育委員会	貸出	遺物	土器	余部遺跡	出土土器23点
			土器	余部遺跡	調査状況
69 夕得ワジ	撮影、掲載	写真	カラーボジ	等腰鹿都市	出土遺物
70 マルチカラーエイド	貸出	写真	カラーボジ	大坂城跡	天正13年冬候地図
71 上庄市立歴史博物館	貸出	遺物	土器	大坂城跡	三ノ丸遺跡出土陶器群31点
			土器	大坂城跡	三ノ丸遺跡調査状況
72 鹿児島市教育委員会	掲載	写真	モノクロプリント	大里遺跡	豊音土器
			モノクロプリント	東宮跡遺跡	屏風跡
			モノクロプリント	東宮跡遺跡	出土遺物
73 株式会社マガジントップ	貸出	写真	カラーボジ	陶邑空塙群	出土土器集合
			カラーボジ	豊北考古資料館	豊北考古資料館
74 日本書籍株式会社	貸出	写真	カラーボジ	陶邑空塙群	出土遺物集合
75 IDJ企画教育委員会	貸出	写真	カラーボジ	紀北遺跡	先史水田
76 新日本新聞	撮影、掲載	写真	モノクロ	田井半遺跡	出土石器・石器素材
77 NH K	貸出	写真	カラーボジ	三ツ塚古墳	修築出土状況

78 ワック株式会社	貸出	写真	カラーザジ	はなみ山遺跡	旧石器時代住居跡発掘状況
79 大阪府立民族文化博物館	貸出、複製	遺物	石器	山上遺跡	ヒスイ鉱玉
80 大阪府立民族文化博物館	貸出	写真			
			モノクロプリント	はなみ山遺跡	旧石器時代住居跡発掘状況
			モノクロプリント	国府通路	旧石器
			モノクロプリント	ノーハウス構	竹器出土情况
			モノクロプリント	海老原遺跡	出土遺物
			モノクロプリント	葛木遺跡	調査状況
			モノクロプリント	堂山古墳	調査状況
			モノクロプリント	小鳥糸道跡	調査状況
			モノクロプリント	舞旗山古墳	調査状況
			モノクロプリント	古市大塚	調査状況
			モノクロプリント	大根城跡	調査状況
			モノクロプリント	傍治堤壁9号墳	調査状況
			モノクロプリント	富の森古墳	調査状況
			モノクロプリント	船持寺遺跡	調査状況
			モノクロプリント	田辺遺跡	調査状況
			モノクロプリント	須吉古墳群	調査状況
			モノクロプリント	南花田遺跡	人物像出土品
			モノクロプリント	青振1号墳	地盤

資料閲覧

所属	資料内容	遺跡
1 (財) 京都府伝統文化財資金研究センター	石器	人見水遺跡第6地点
2 岸和田市教育委員会	縄掛包	野川遺跡
3 堺市立歴史文化財研究センター	黒鐵鉄	家原寺町古文化街
4 熊本大学4回生	細胞管	向日鹿島御
5 大阪大学4回生	鉄劍	対馬寺古墳群
6 岡山大学院生	細胞器	向日鹿島御
7 他大阪大学歴史文化財研究会	石錐・石刀	細川南遺跡・面月中遺跡
8 藤原記念大学考古学研究所所長	要要望	向日鹿島御
9 大阪大学院生	骨生土器	対馬寺遺跡
10 大阪大学院生	石器・土器	田中中遺跡
11 和泉高島いづみの開拓史館	写真資料	池上・曾根遺跡・府中遺跡
12 愛知県教育部歴史文化財研究室	縄掛包	南白井跡、立山古墳、野々井25号墳、占地遺跡
13 京都市立歴史文化財いづみの	縄掛包	三軒屋遺跡
14 余呂町教育委員会	縄掛包	南白井跡
15 京南市教育委員会	鉄劍	地・竹口遺跡、大瀬遺跡
16 大阪大学院生	骨生土器	対馬中遺跡
17 大阪府立土研	写真資料	千里遺跡
18 立命館大学大学院	円筒埴輪	安佐1号墳、伴津山古墳
19 京都大学大学院	瓦塊	河内郡分寺、百舌寺、西宮神寺
20 藤原記念大学考古学研究所	須恵器	向日鹿島御
21 人山町教育委員会	瓦塊	河内郡分寺、応神陵古墳外堀
22 大阪大学4回生	上偶	田村中遺跡
23 大阪大学人文学部	紙幣	安佐1号墳
24 岩山東城市立博物館	縄掛包	向日鹿島御
25 鈴鹿市考古博物館	円筒埴輪	西山小山遺跡、西陵古墳
26 奈良大学	須恵器	南白井跡
27 大阪府立上合	縄掛包	南白井跡
28 同志社大学人文学院	田中帶	八幡南遺跡第6地点
29 藤原記念立川博物館	須恵器・瓦	鶴谷跡、新笠寺跡
30 函館市出土資料館	瓦塊	垂幕寺・梅森中下代遺跡
31 南西日本大学院	勾玉	七才遺跡、大瀬遺跡
32 沖学生大学大学院	特異器	東尾遺跡
33 京都府立大学	陶器	周防吹跡
34 安城大学	骨生土器	高志遺跡
35 花崗大学4回生	鉄劍	扇ノ森古墳
36 上野町立歴史文化財史館	縄掛包	大根城跡
37 立命館大学大学院	円筒埴輪	高畠山古墳・堂坂遺跡、応神陵古墳
38 「奈井川古道陶器歴史館	縄掛包・木漆	大根城跡
39 京都府立大学	陶器	野々井当12号墳、野々井遺跡、野々井街道、雲山3号墳
40 京都文化博物館	龜壳	大根城跡
41 岡山大学	須恵器	向日鹿島御
42 大阪府立文化財資金研究センター	写真資料	貴生原遺跡、伝大冢市北条出土、板持3号墳、北玉山古墳
43 京都府立博物館	縄掛包	陶器
44 佐山市歴史文化財センター	縄掛包	向日鹿島御
45 行手町文化財事業団	須恵器	向日鹿島御
46 烏丸御池歴史文化センター	石斧	石斧遺跡

平成12年度 大阪府教育委員会文化財調査事務所組織図（平成12年4月27日）

文化財調査事務所
（文化財保護課分室）

調査管理グループ	資料総括主査	森井貞雄	主査	泉北資料館協力 事務所維持管理等
調査管理補佐	大野 薫	兼 泰通	主査	積算及び竣工等
		横本高明	技師	年報・調査報告書 写真・保存処理等
		森原直樹	技師	（財）文調センター指導・調整 業務量調査
		山田隆一	技師	遺物整理 資料管理・貸出等
		小浜 成	技師	遺物整理 非常勤職員資金等
調査第一グループ	調査第一総括主査	泉本知秀	主査	発掘調査・調整・指導（泉北三島北河内）
調査第一補佐	岩崎二郎	小林義孝	主査	発掘調査・調整・指導（中河内）
		辻本 武	技師	発掘調査
		宮崎泰史	技師	発掘調査
		奥 和之	技師	発掘調査
		阿部幸一	技師	発掘調査
		山上 弘	技師	発掘調査
		横田 明	技師	発掘調査
		藤田道子	技師	発掘調査
調査第二グループ	調査第二総括主査	佐久間貴士	主査	発掘調査・調整・指導（南河内）
調査第二補佐	広瀬雅信	藤沢眞依	主査	発掘調査・調整・指導（泉州）
		今村道雄	技師	発掘調査
		亀島重則	技師	発掘調査
		桥本 哲	技師	発掘調査
		大栗康宏	技師	発掘調査
		竹原伸次	技師	発掘調査
		大西貴子	技師	発掘調査
		西川寿勝	技師	発掘調査
文化財調査事務所				
TEL 0722-91-7401				
FAX 0722-91-8451				
(堺市竹城台3-21-4)				

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 4

発行日 2001年3月30日

発行 大阪府教育委員会

編集 大阪府教育委員会文化財調査事務所

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

